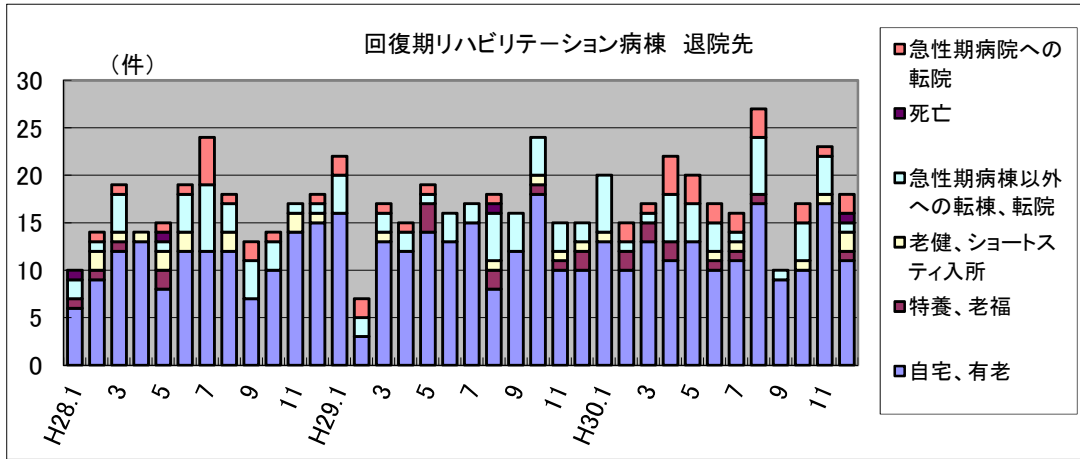


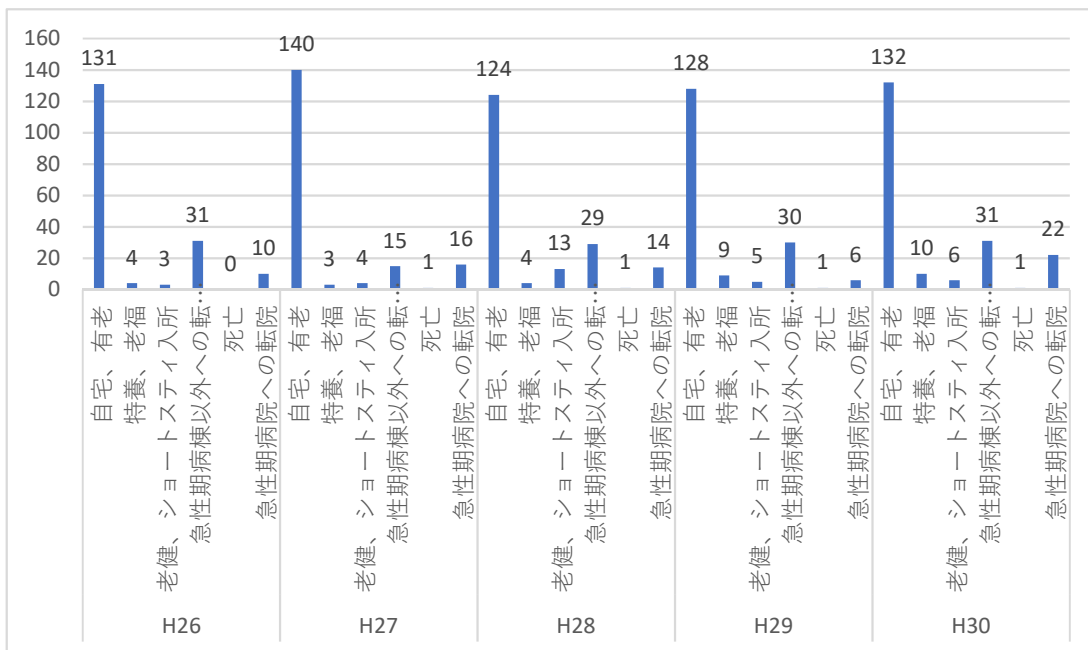
## ハ) 退院先

### 【目的】

年度、月々によつての退院先の傾向を読み取り、関係する要因を分析し、ゲストに適した退院先を導けるようにするため。



### 直近5年(退院先)



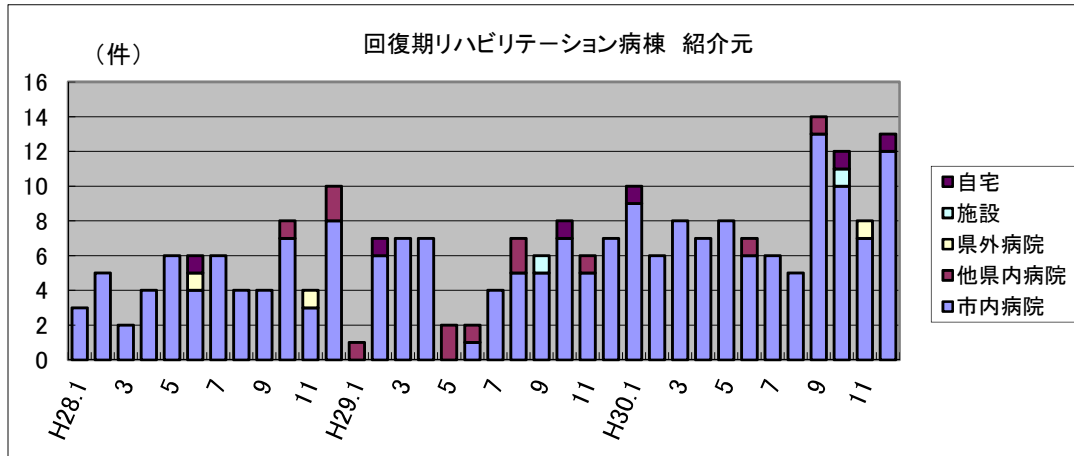
### コメント

退院先として在宅系の割り合いが一番大きい。平成30年度は過去3年の中で急性期病院への転院の割合が多いと考えられる。

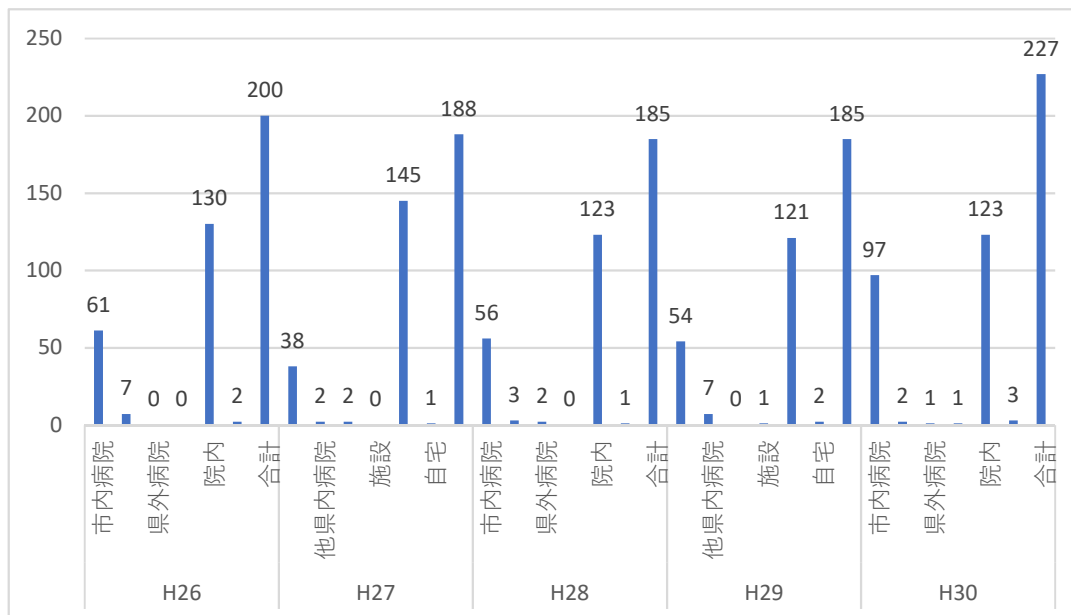
## 二) 紹介元

### 【目的】

年度、月々によつての紹介元の傾向を読み取り、どこの病院・施設からどういう症例が多いかなどの分析をし、円滑な入院診療計画を立案するため。



### 直近5年(紹介元)



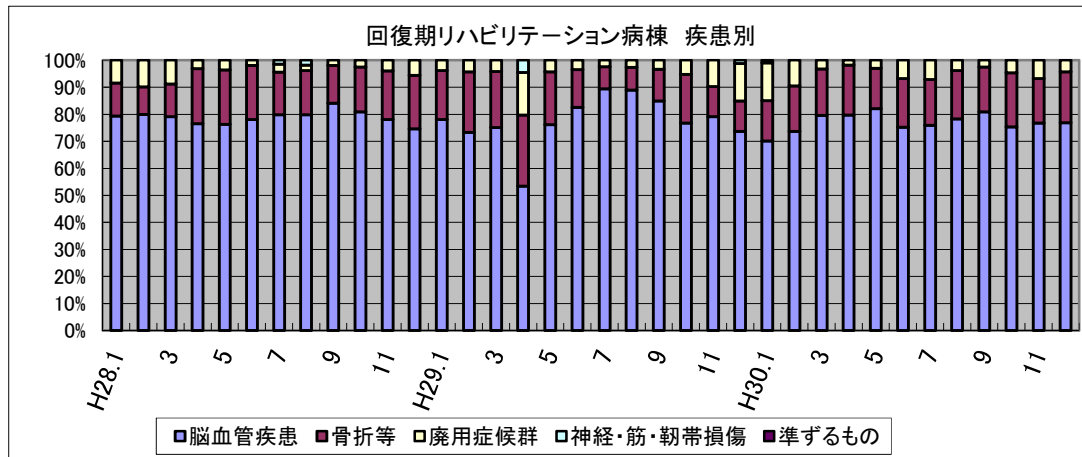
### コメント

紹介元は過去3年間とも市内病院からが多い。平成30年は3年間の中で紹介率が高い一年であった。県病院だけでなく脳梗塞輪番体制の杉本病院、医師会病院の紹介もある。

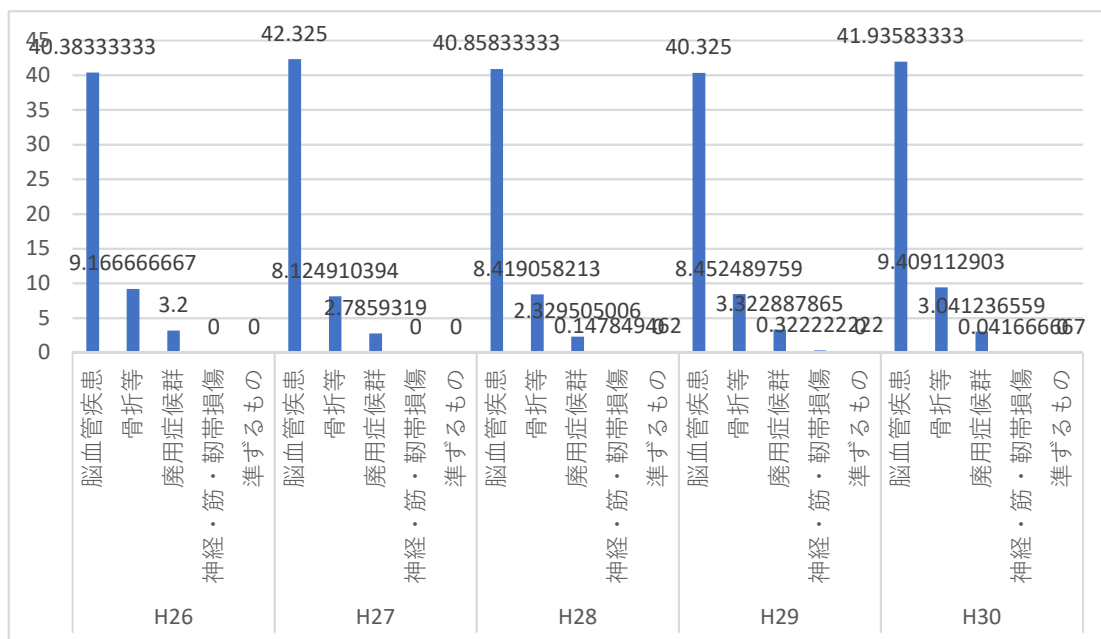
ホ) 疾患別

【目的】

年度、月々によつての疾患別の傾向を読み取り、特化したケアやリハビリが出来るようにする為。



直近5年(疾患別)



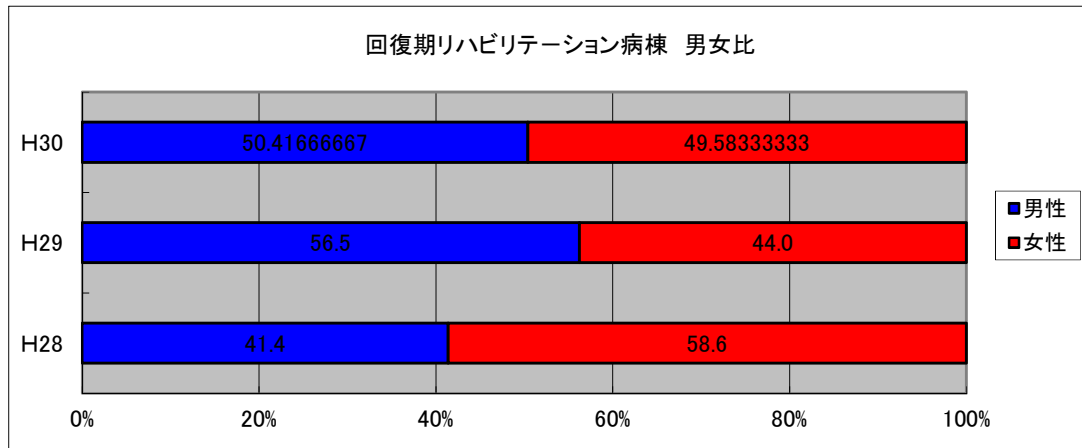
コメント

過去3年間を通して脳血管疾患の割合が多い。次に骨折に準ずるもの、廃用症候群の順となっている。ここに大きな変化はないと考えられる。

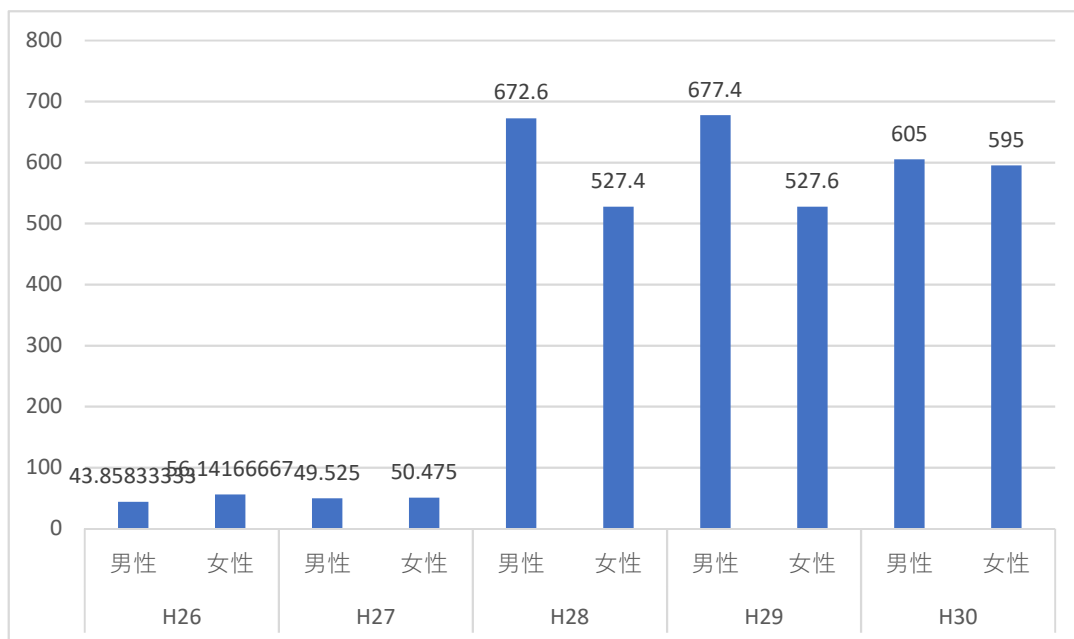
へ) 男女比

【目的】

年度、月々によつての男女比の傾向を読み取り、部屋やキャストの配置  
リハビリメニューなどを考慮するため。



直近5年(男女比)



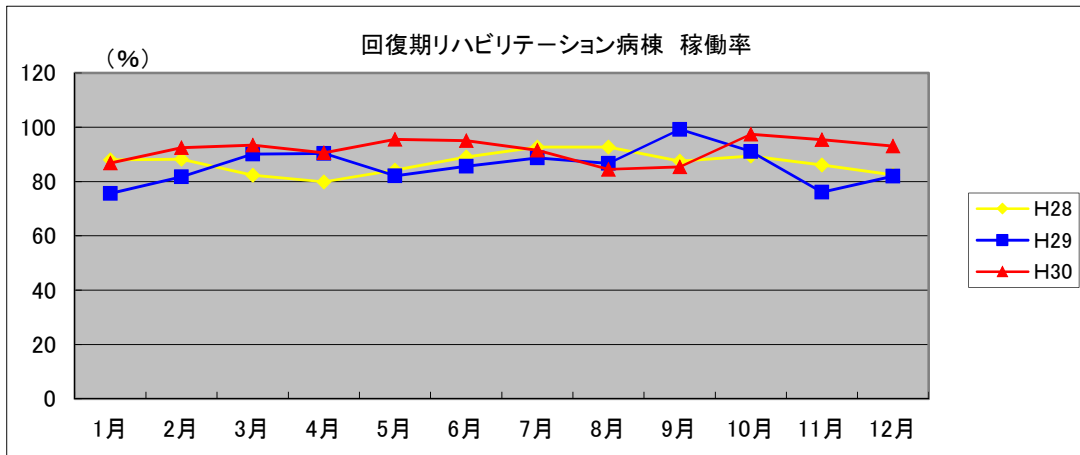
コメント

過去3年間通して大きな差は認められない。

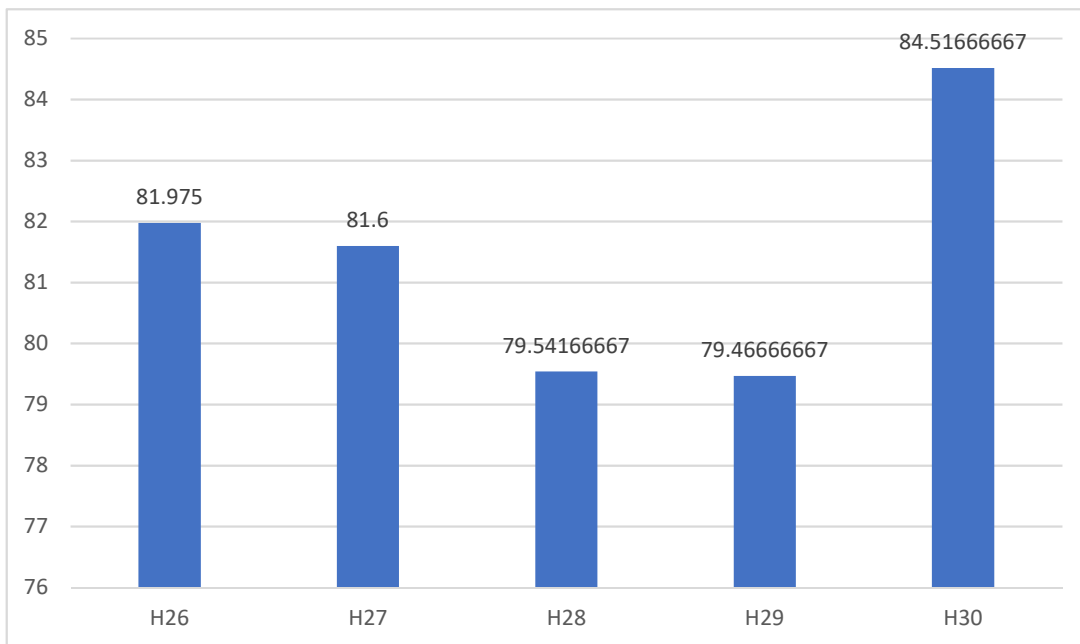
ト) 稼働率

【目的】

年度、月々によつての稼働率の傾向を読み取り、ベッドコントロールなどへの活用や回復期病棟の必要性を知るため。



直近5年(稼働率)



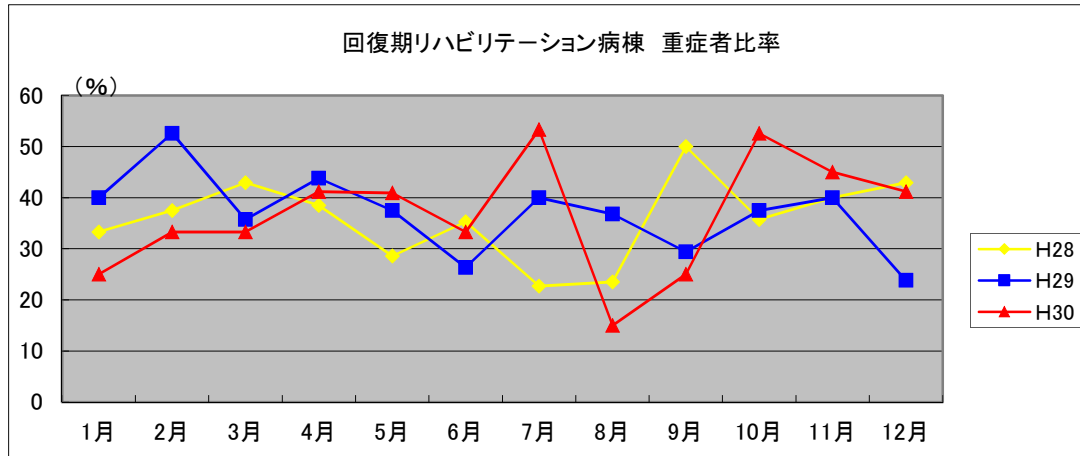
コメント

平成30年度は過去3年間の中で比較的稼働率が高い一年であった。  
また年間を通して平均的な稼働率の推移であったと考えられる。

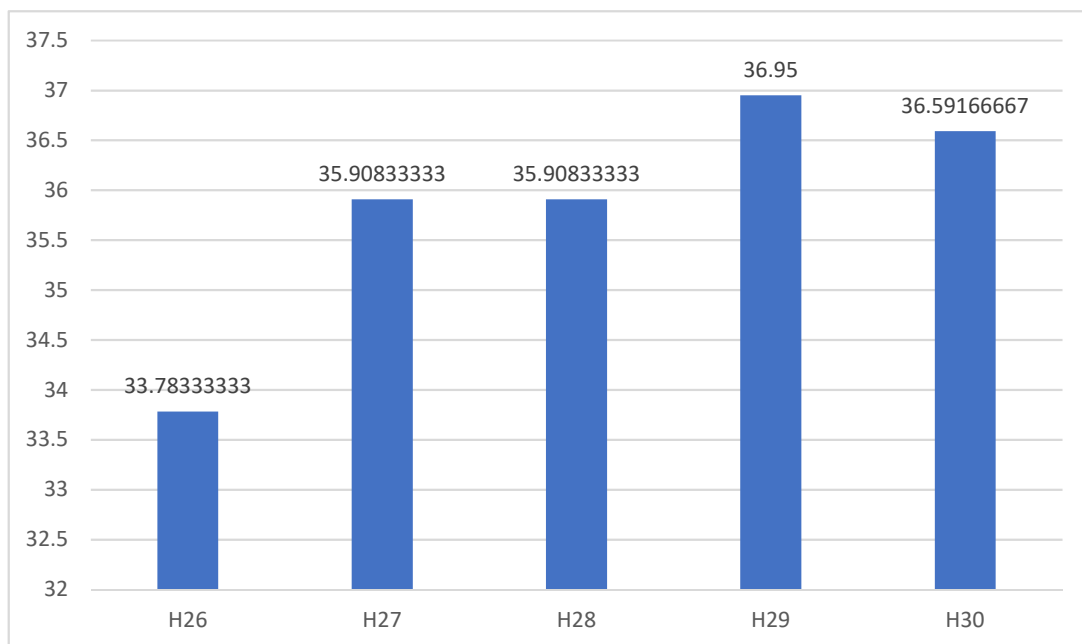
チ) 重症者比率

【目的】

年度、月々によつての重症者比率の傾向を読み取り、キャスト必要数や病棟環境、リハビリ提供単位数など考慮するため。



直近5年(重傷者比率)



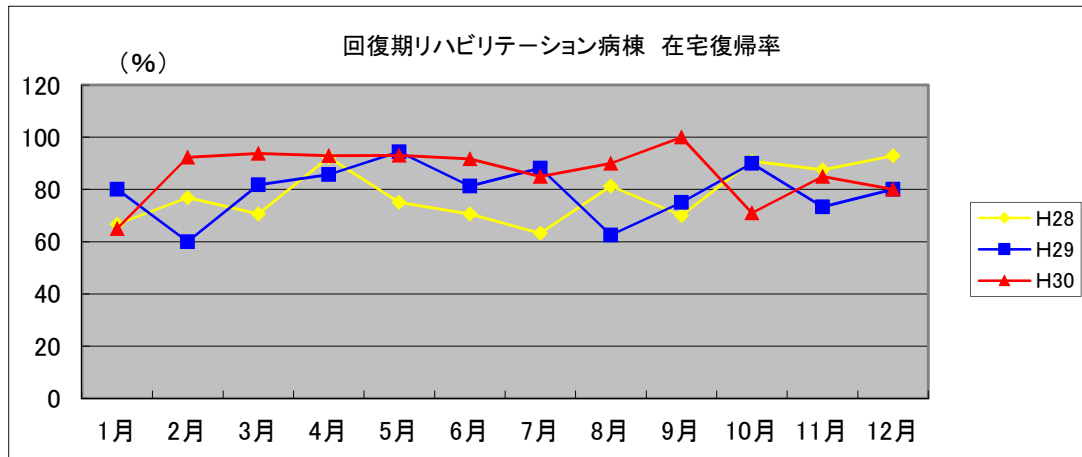
コメント

平成30年は単月30%を下回る事があり、累計での調整が必要であった。県立延岡病院・一般病棟からの重傷者が特に8月が落ち込んだが、その後調整が可能であった。今後も週1回の報告時に重傷者のデータを情報共有していき調整が必要。

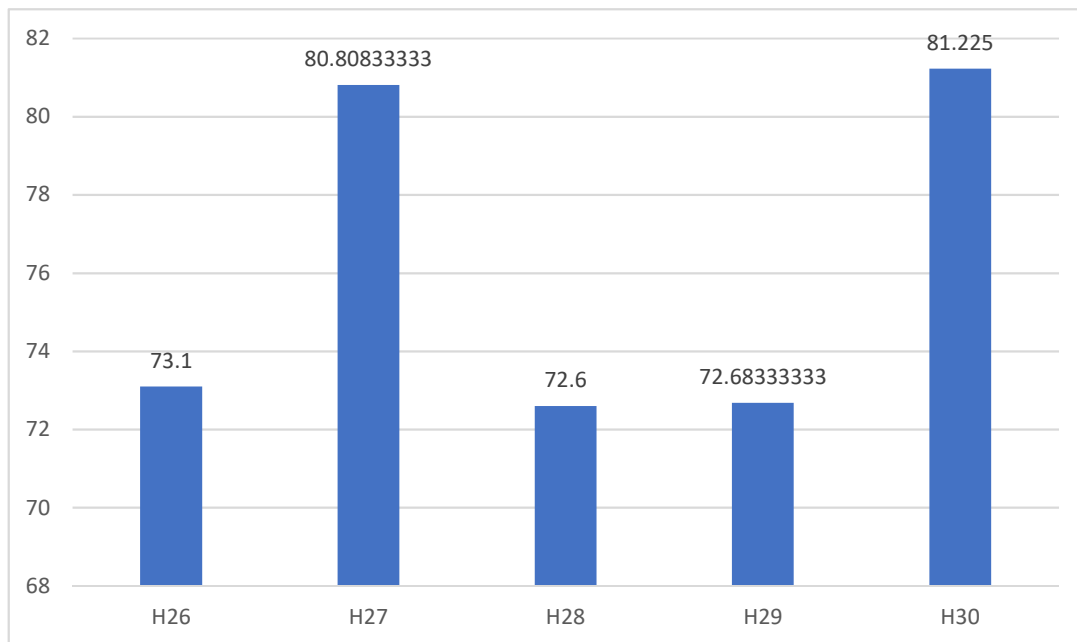
リ) 在宅復帰率

【目的】

年度、月々によつての在宅復帰率の傾向を読み取り、在宅・非在宅の要因を分析し、可能な限り在宅復帰を支援するため。



直近5年(在宅復帰率)



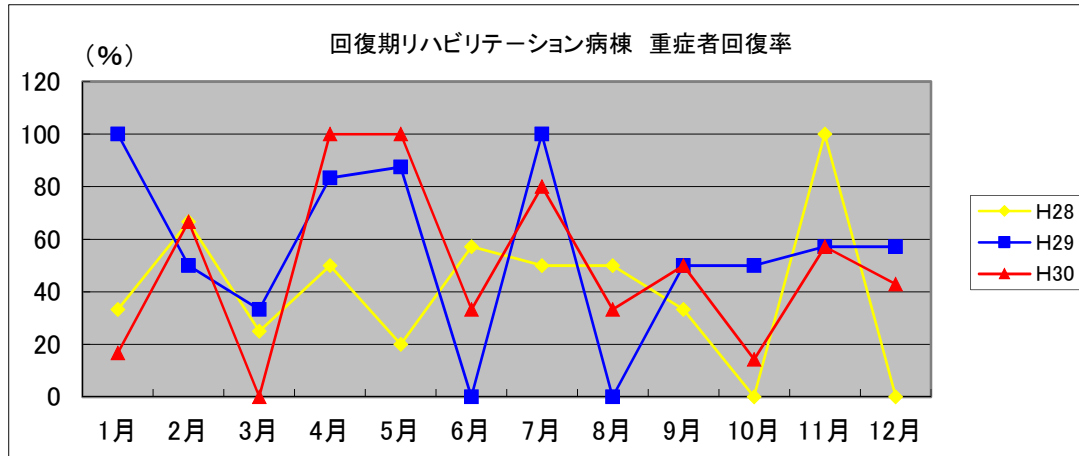
コメント

平成30年度の診療報酬改正により一般病棟への転棟は除外される事になった影響のため年間通して高い在宅復帰率となった。

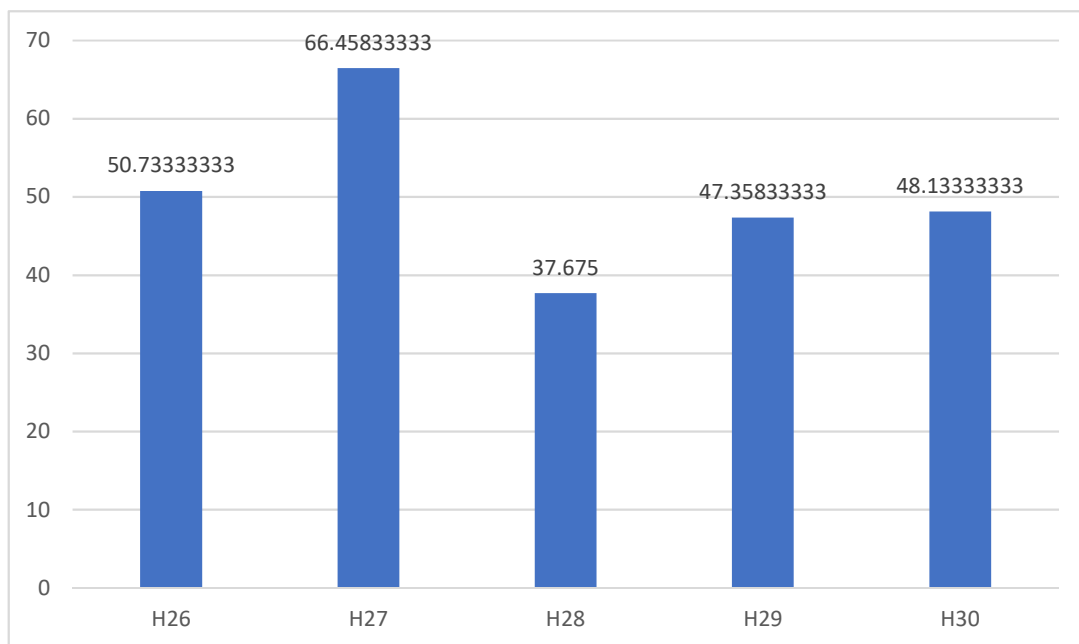
又) 重症者回復率

【目的】

年度、月々によつての重症者回復率の傾向を読み取り、回復に至つた要因などを分析し、ケアやリハビリの質を向上させるため。



直近5年(重傷者回復率)



コメント

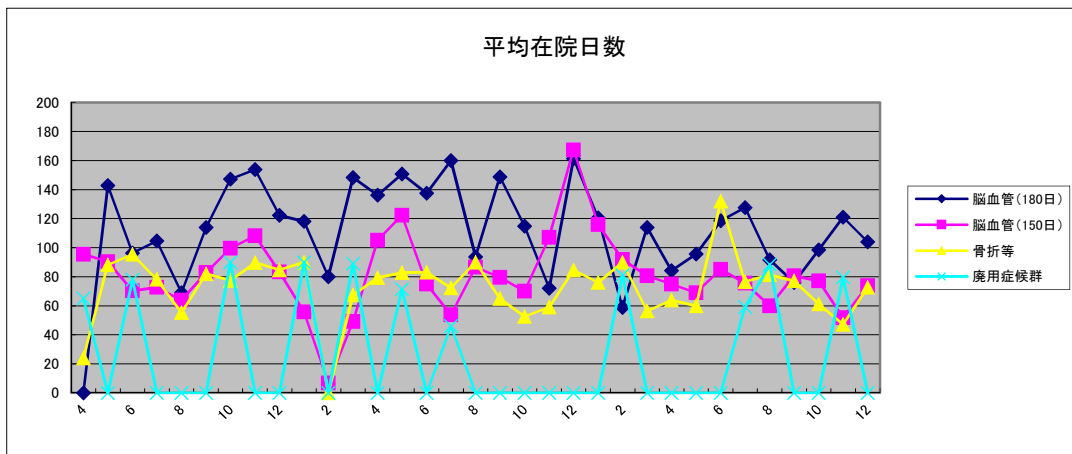
平成30年度は平成29年度と違い、単月で0%が3月のみであった。  
30%以上を維持できており、Cレベルのゲストへのアプローチも積極的に結果が出ている。



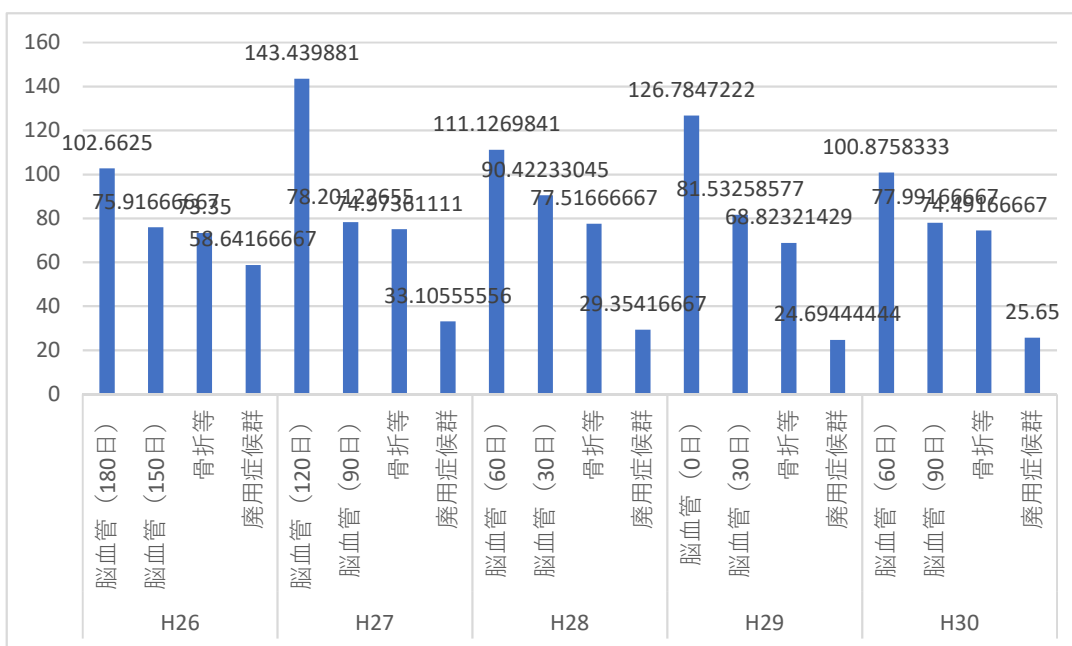
ル) 平均在院日数

【目的】

年度、月々によつての平均在院日数の傾向を読み取り、在院日数の短縮ができた症例などを分析し、退院支援を確立するため。



直近5年(平均在院日数)



コメント

廃用症候群の対象者がいない場合があるため、グラフに差が生じている。  
 脳血管疾患180日対象者は過去3年間を比較すると若干ではあるが短縮傾向  
 と考えられる。平成28年の報酬改正の実績指数に在院日数が関与してきたため  
 退院の時期調整の意識が高まってきていると考えられる。

ヲ) 回復期病棟における1日当たり平均リハビリテーション提供単位数

【目的】

年度、月々によつての平均リハビリ提供単位数の傾向を読み取り、セラピスト必要数の把握や充実加算取得などの指標になるため

コメント

7. リハビリテーション部門      リハビリテーション科 科長 長友 優

イ) リハビリ単位数合計

【目的】

リハビリ全体における疾患別リハビリのニーズと提供単位数の把握

コメント

ロ) 外来リハビリ単位数

**【目的】**

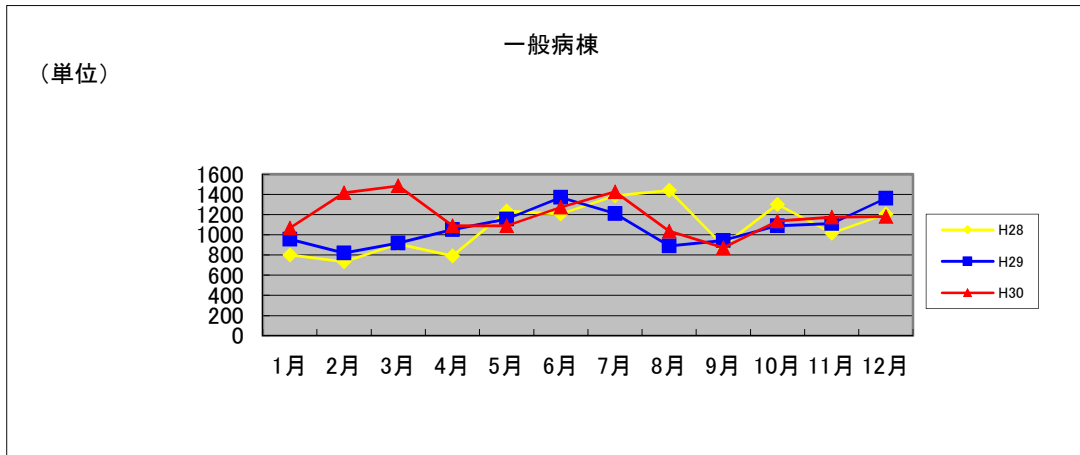
外来病棟における疾患別リハビリのニーズと提供単位数の把握

コメント

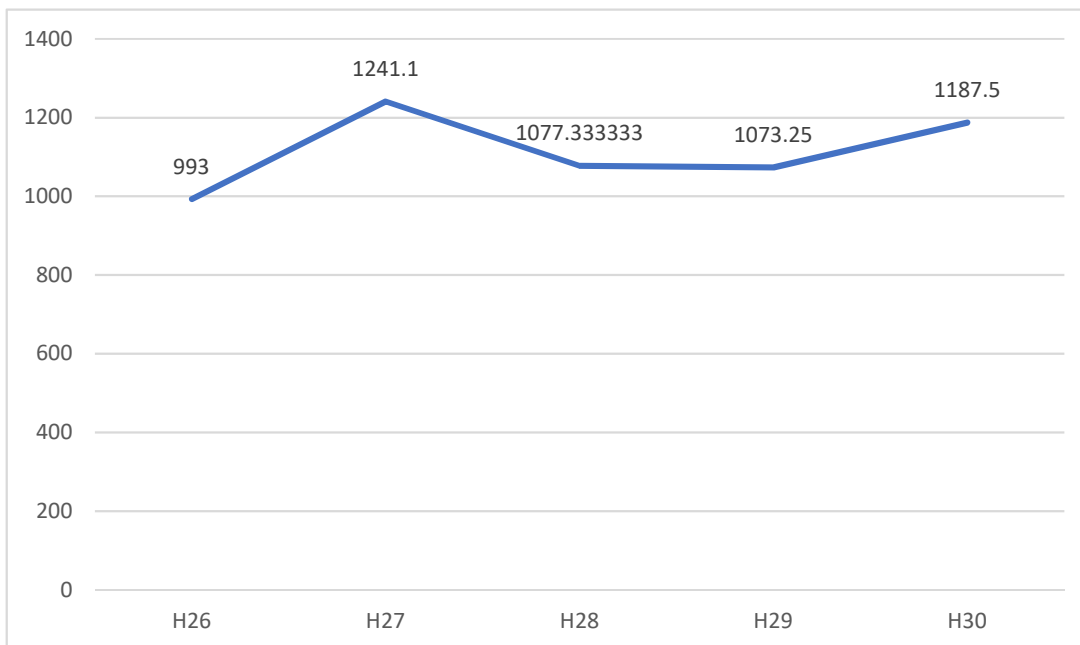
ハ) 一般病棟リハビリ単位数

【目的】

一般病棟における疾患別リハビリのニーズと提供単位数の把握。



直近5年(一般病棟リハビリ単位数)

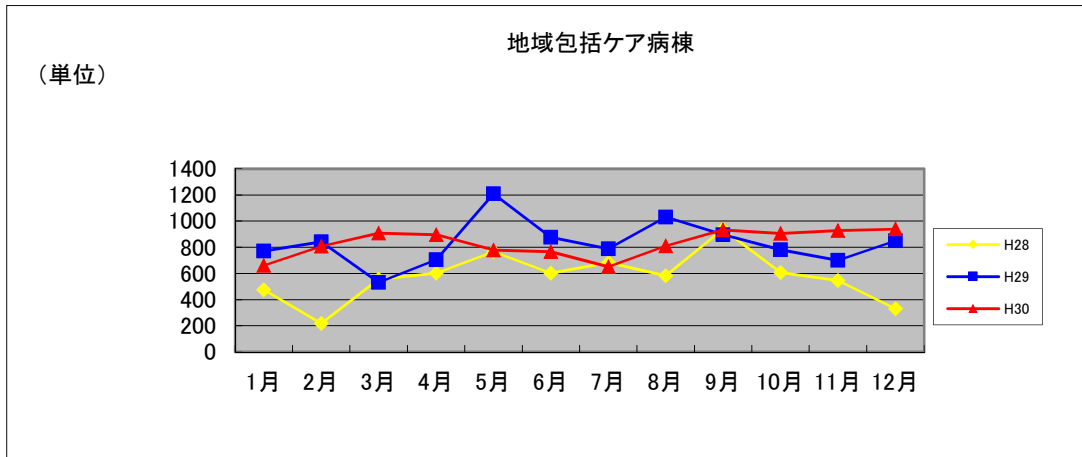


コメント

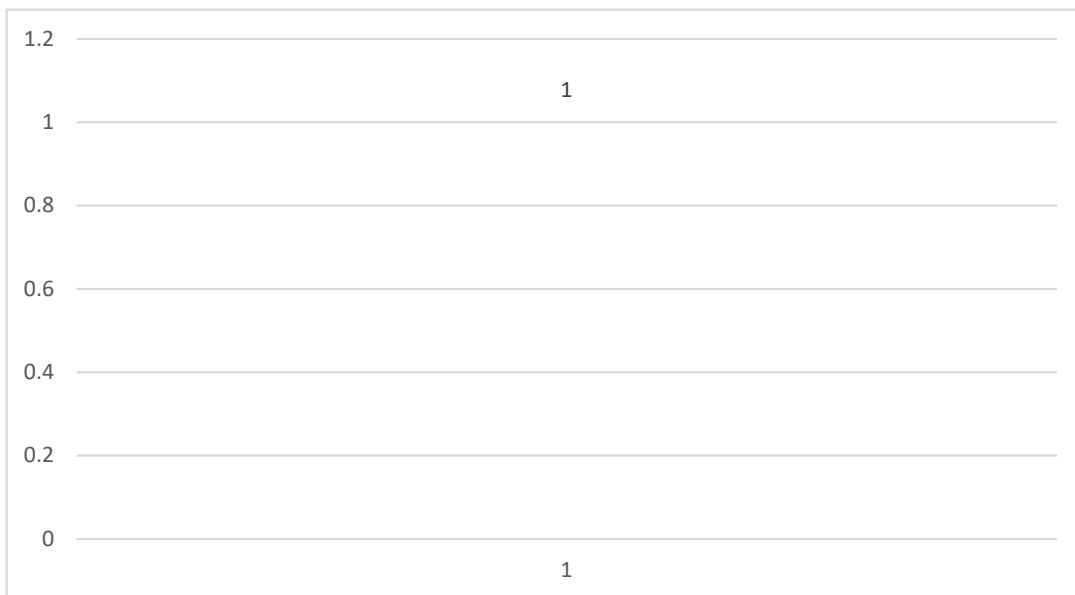
二) 地域包括ケア病棟リハビリ単位数

【目的】

地域包括ケア病棟における疾患別リハビリのニーズと提供単位数の把握



直近5年(地域包括ケア病棟リハビリ単位数)

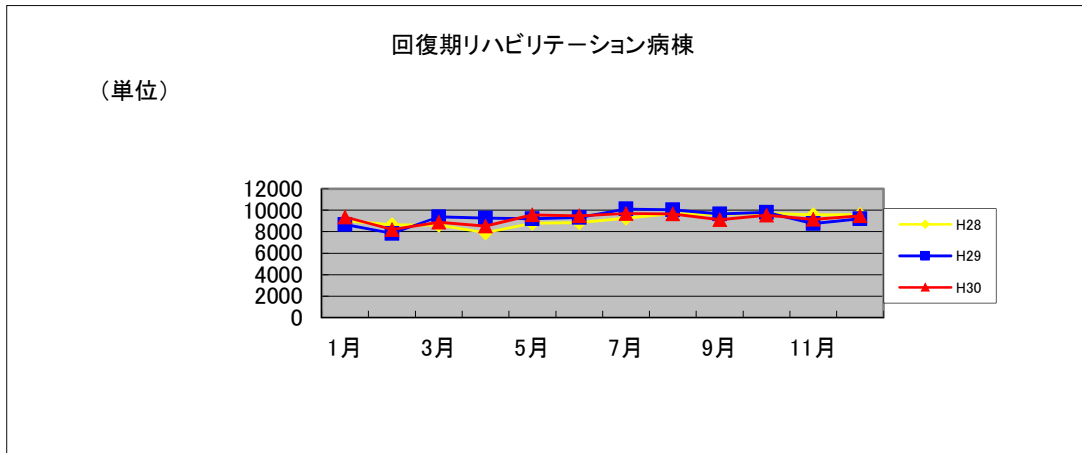


コメント

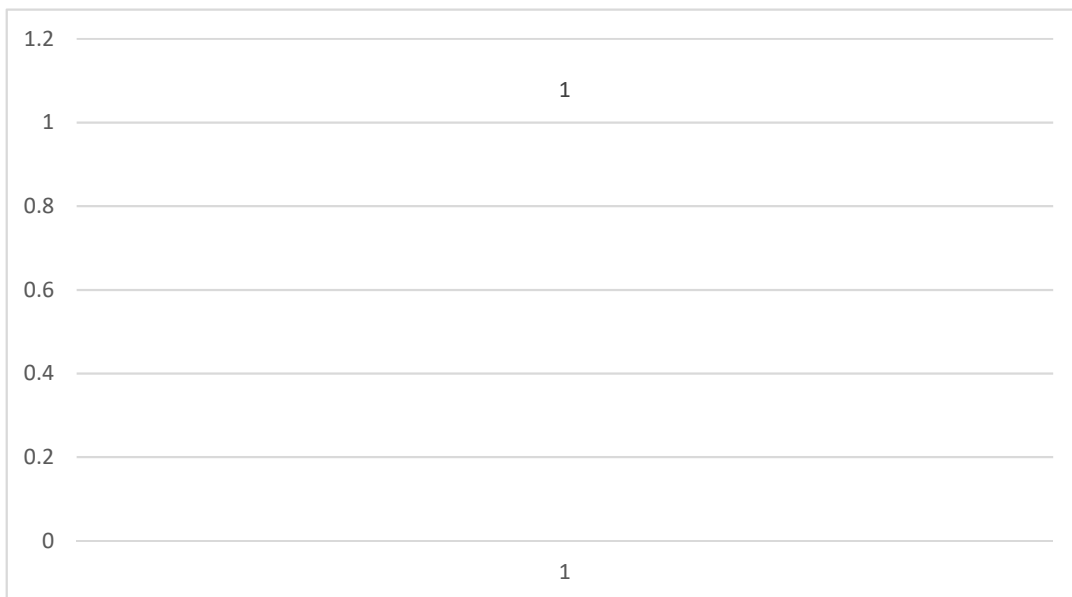
ホ) 回復期リハビリテーション病棟単位数

【目的】

回復期リハビリテーション病棟における提供単位数の把握



直近5年(回復期リハビリテーション病棟単位数)

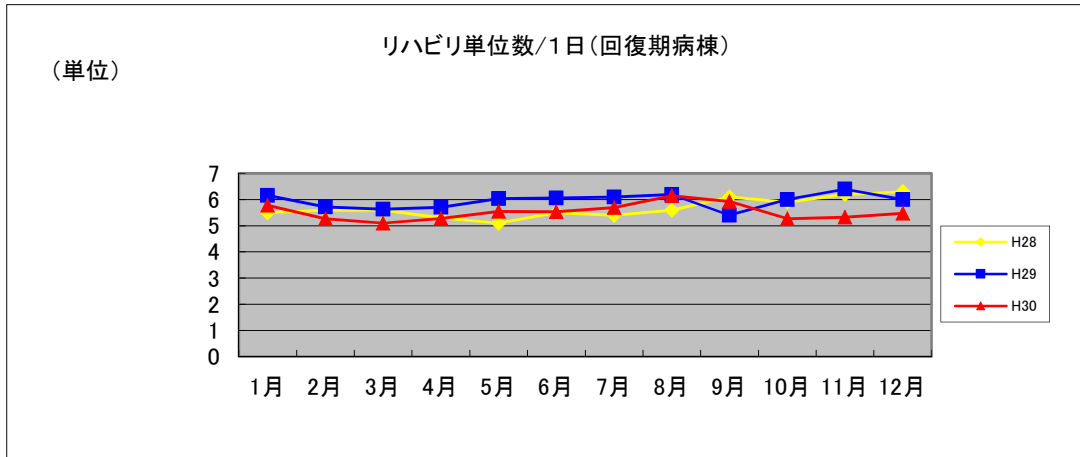


コメント

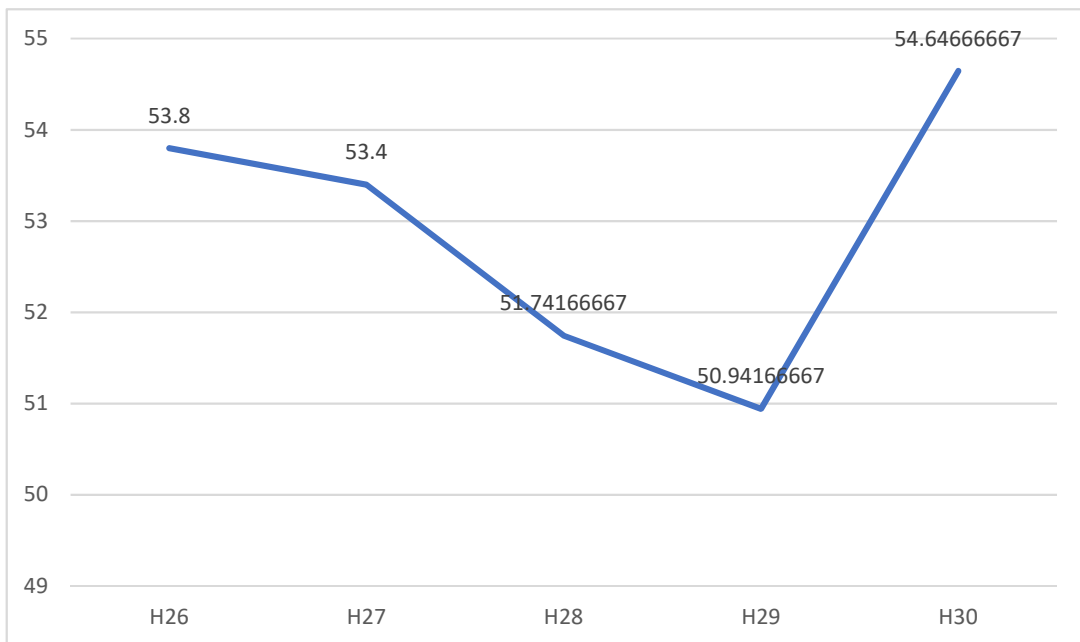
へ) 一日あたりリハビリ提供単位数(回復期病棟)

【目的】

回復期における一人当たりの提供単位数の把握  
充実加算算定を見据えた提供単位数の把握



直近5年(リハビリ単位数/1日 (回復期病棟))



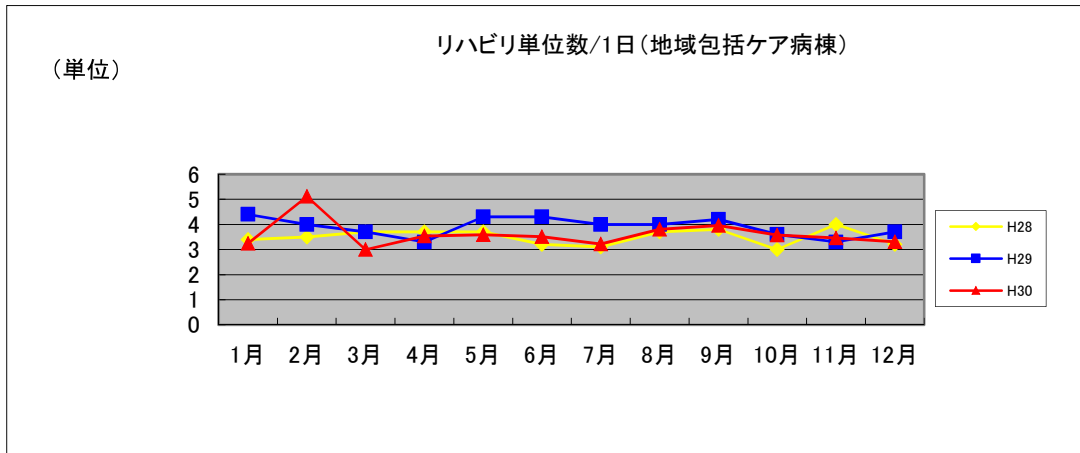
コメント



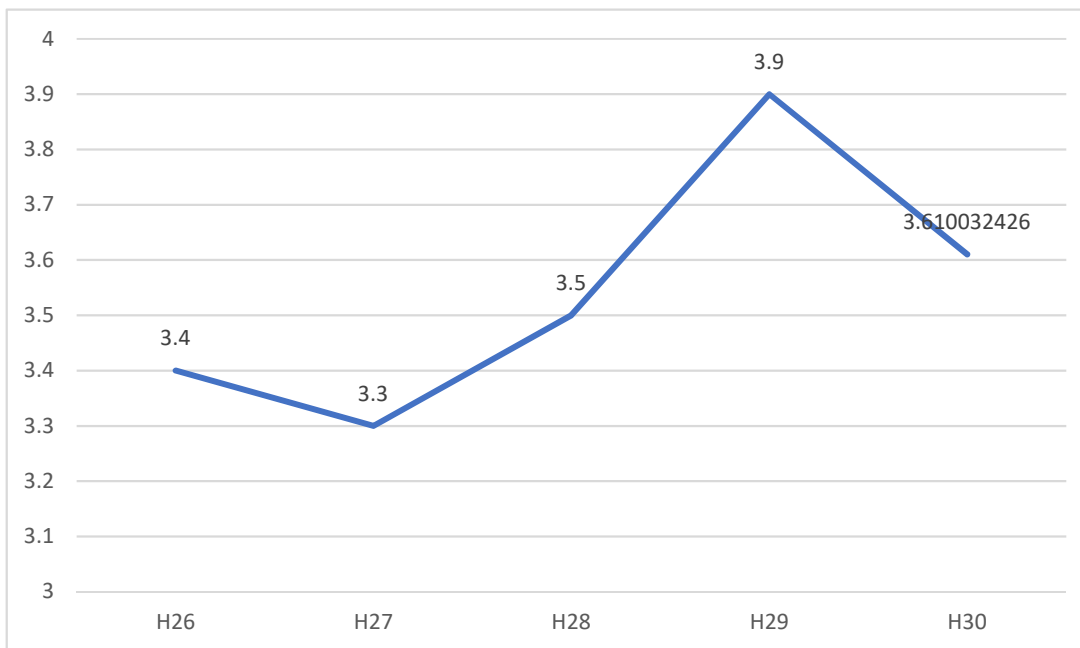
ト) 一日あたりリハビリ提供単位数(地域包括ケア)

【目的】

地域包括ケア病棟における施設基準遵守



直近5年(一日あたりリハビリ提供単位数地域包括ケア病棟)

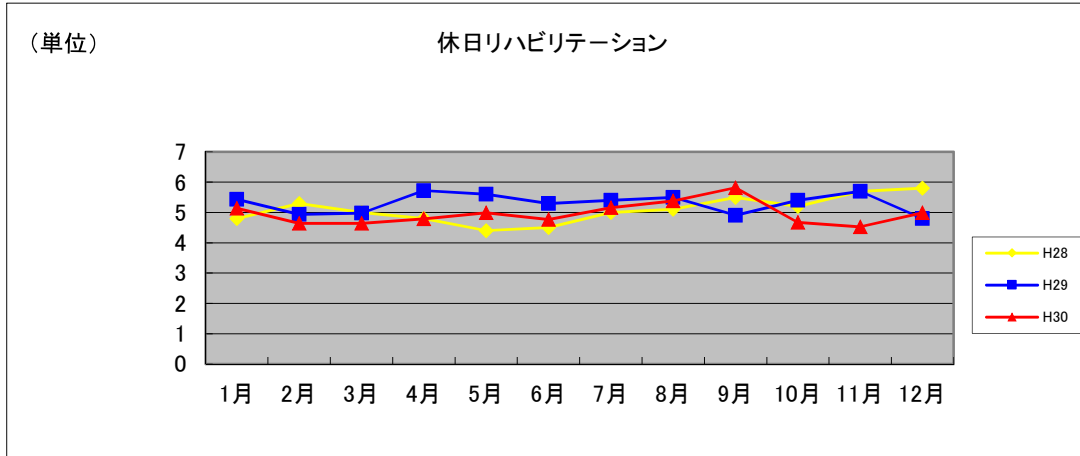


コメント

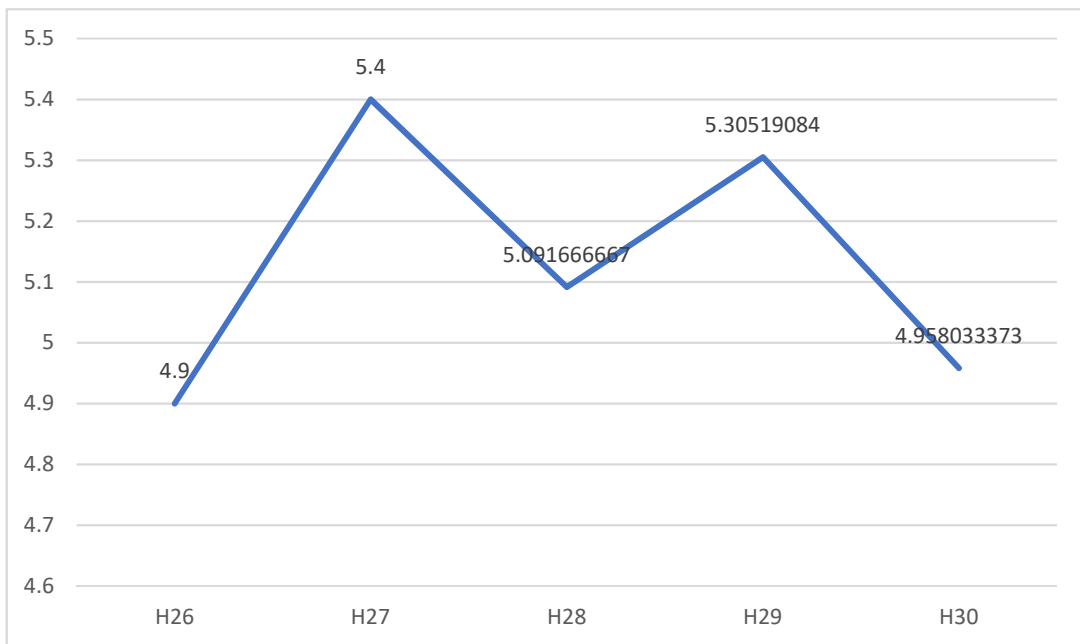
チ) 休日体制加算

【目的】

休日のリハビリ提供単位数の把握  
休日加算算定要件の確認



直近5年(休日リハビリテーション提供単位数回復期病棟)

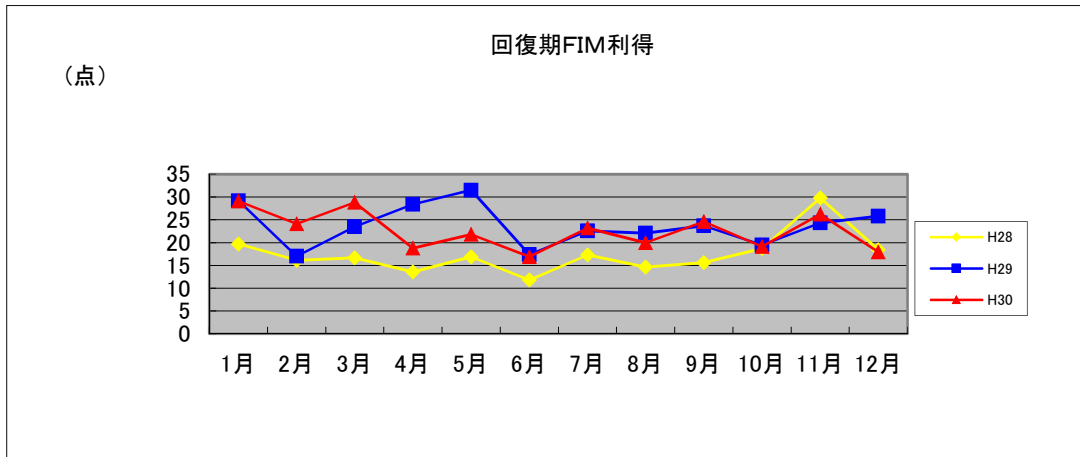


コメント

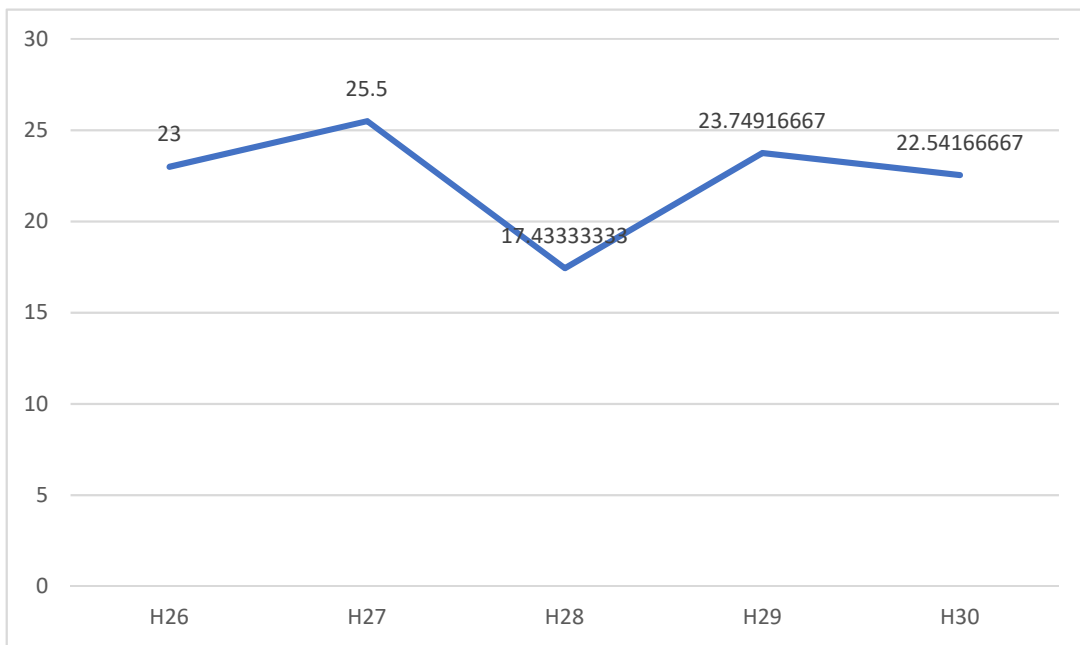
リ) FIM取得

【目的】

当院におけるリハビリ効果の一指標



直近5年(FIM改善率回復期)



コメント

又) セラピスト数推移

【目的】  
提供単位数分析における一データ

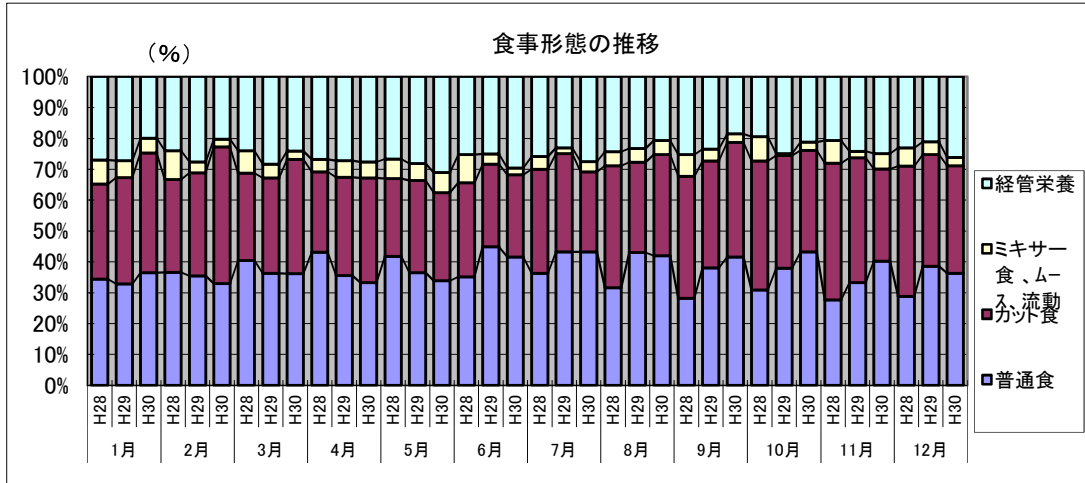
直近5年(セラピスト数)

コメント

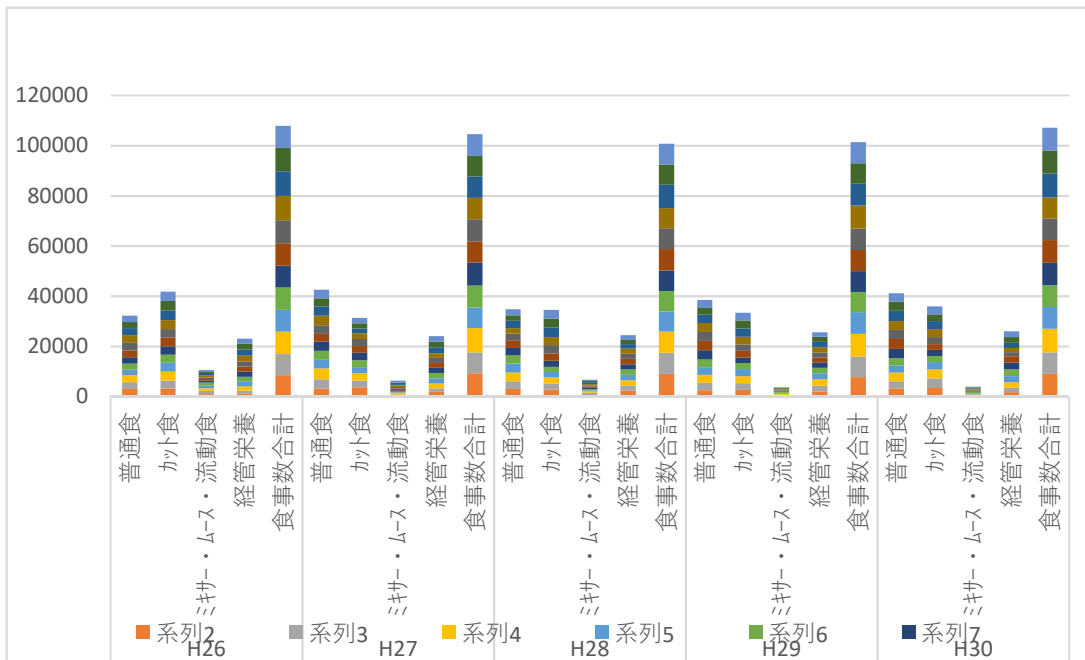
8. 栄養 栄養科 主任 片伯部 理奈

イ) 食事形態の推移

【目的】重症度の高いゲストが普通食を食べることはほとんどない。つまり、食事形態層をすることはゲストの重症度に比例するのではないかと考える。年間推移をみることで今後どのような食事形態が求められるのかを調査する。



直近5年(食事形態の推移)



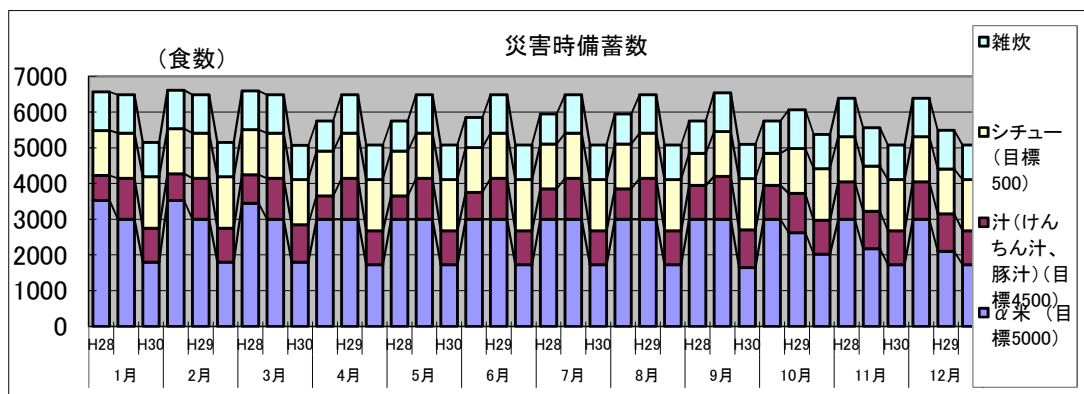
コメント

食事形態については年別、月別で大きな差はない。ゲストの口腔内の状況や覚醒状態等によって普通食がたべれないゲストが増えてきている事から今後、学会分類に応じて食事形態の見直しも必要。

ロ) 災害時非常食

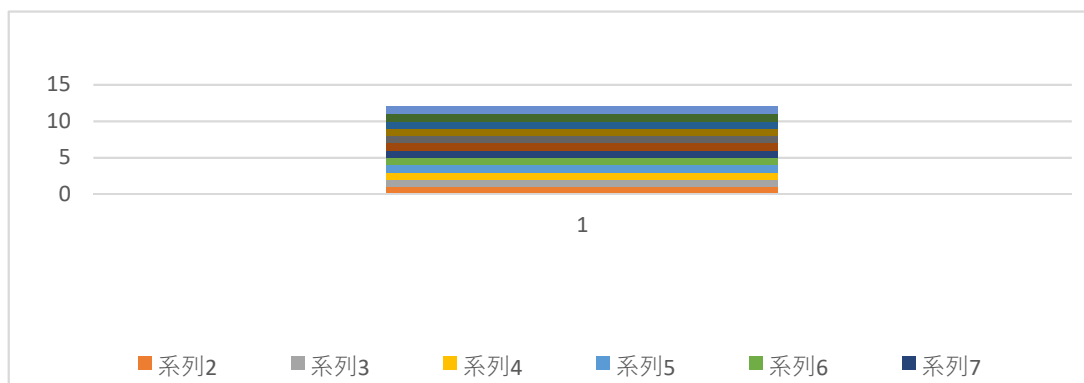
【目的】

当院では、災害時に備えた備蓄食を保管している。災害によって、電気や水道、ガスが使用できなくなったときでも、確実に患者様に食事が提供できるよう、備蓄食食数を管理していく。



食品	種類	特徴
α米	白米 わかめご飯 山菜ご飯 五目ご飯	お湯を注ぐだけで食べられます
汁	(けんちん汁 豚汁)	鍋に入れて暖めれば直ぐに食べられます
シチュー		食材がドライでの保存なので賞味期限が20年あります

直近5年(災害時備蓄数)



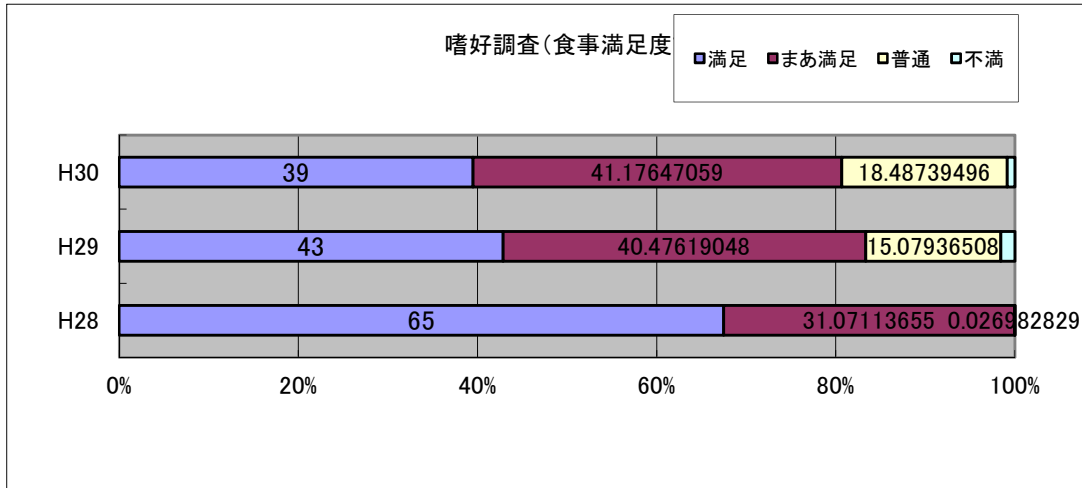
コメント

備蓄食は患者様100名、職員100名、地域50名、計250名分の食事を3日分保管している。  
備蓄している食品については長期保存(5年～35年)が可能。

ハ) 嗜好調査(食事に対する満足度調査)

【目的】

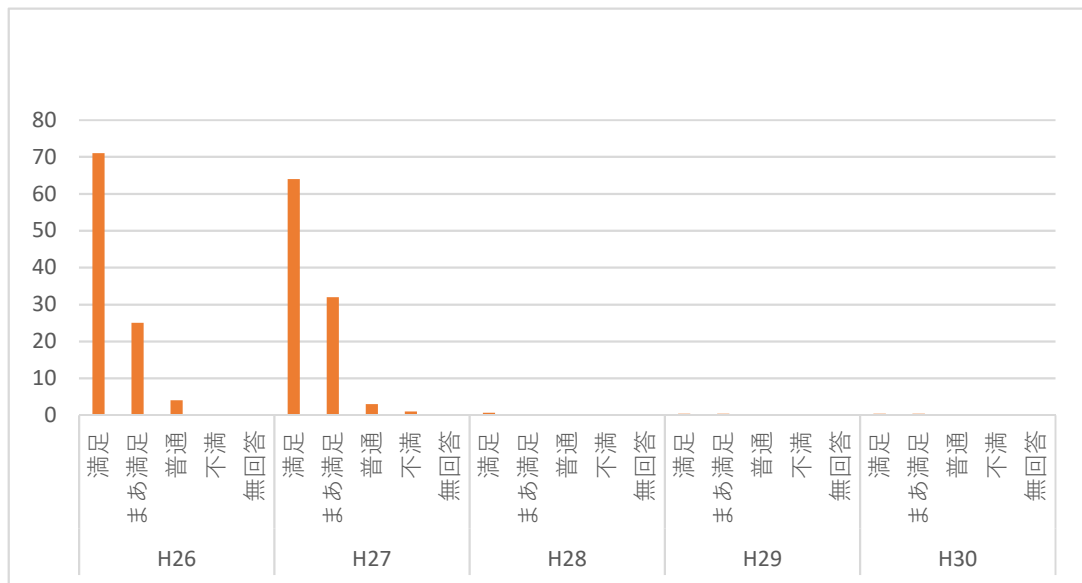
食事の基本は「おいしいこと、安全であること」である。ゲストの食事に対する評価、希望、不満を聞くことで、献立や調理に生かし、満足される食事を目指す。



人気メニューベスト5

H29		H30	
刺身	刺身を提供する時期なので人気がある	カレー	「コクがあっておいしい」とのこと。季節に合わせて食材を変えている。 味付きのご飯は好まれます。行事食などに取り入れ、見た目の華やかさにも工夫しています。 気温が低い期間(11月~3月)は地元の刺身を毎週提供しています。喜ばれています。 咀嚼機能の低下したゲストにもおいしく食べてもらうため、鶏肉は重曹を使用して軟らかく仕上げています。 季節に合わせた食材を使用し、おいしく食べていただいています。
寿司	寿司なら何でも好きと言われる	散らし寿司・いなり寿司	
チキン南蛮	宮崎名物	刺身、ラーメン	
から揚げ	軟らかく仕上がっている	唐揚げ	
煮豆	甘くて美味しいとの評判	天ぷら	

## 直近5年(嗜好調査)



### コメント

アンケートをとったゲストの体調、心理的状态や、入院期間によって結果には差がありますが、8割以上のゲストから「満足している」という評価をいただいています。



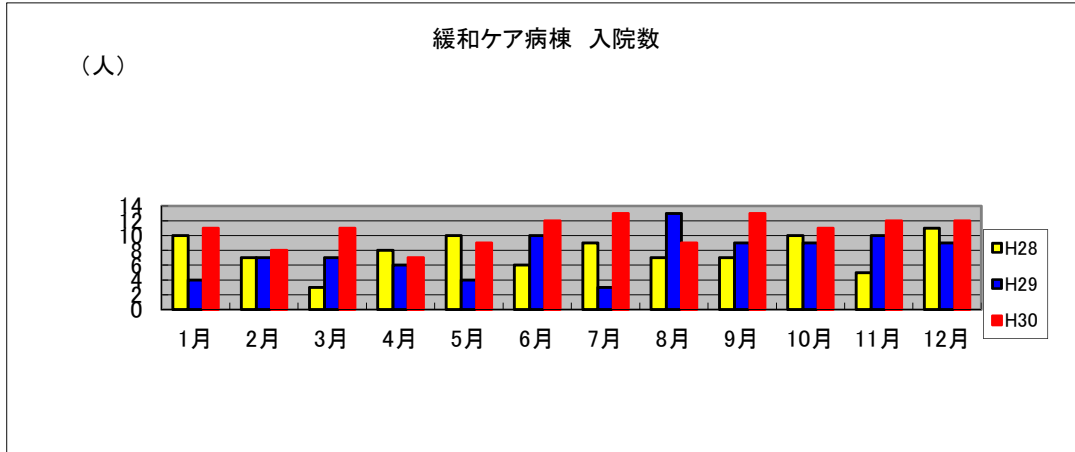
## 9. 緩和ケア病棟

緩和ケア病棟 副部長 松田 智子

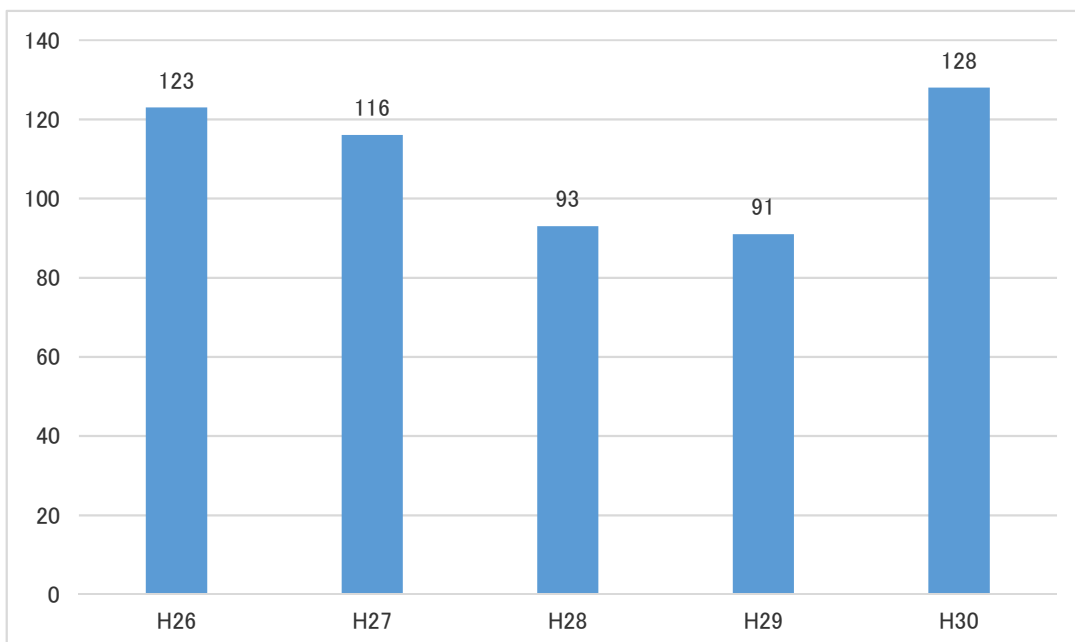
### イ) 入院数

#### 【目的】

地域での緩和ケア病棟の需要を知ることができる。



#### 直近5年(入退院数)



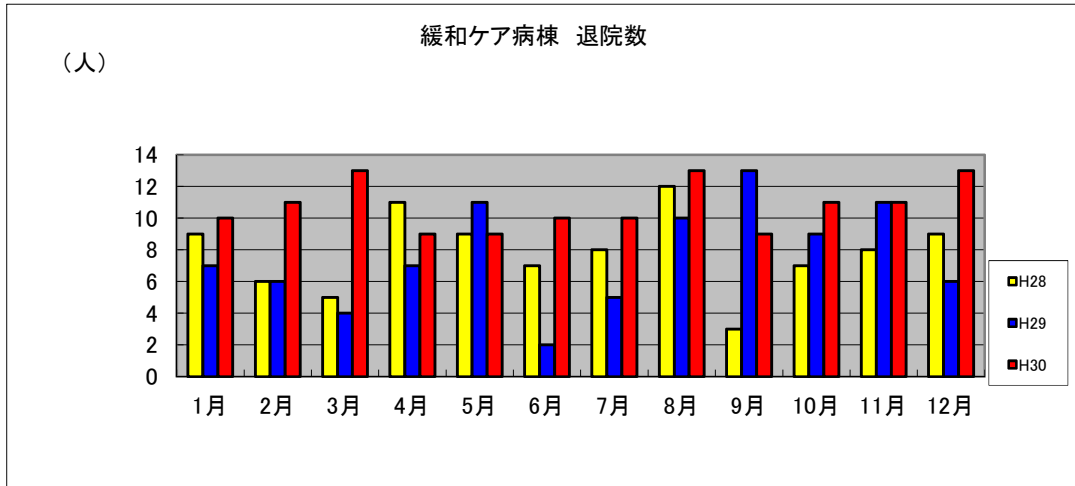
#### コメント

月毎の推移で年間通して傾向などは見受けない  
黒木病院緩和開設以来入院紹介件数が減少していたが、今年度はリフレッシュや在宅退院者の増加に伴い再入院などの件数増加から入院数増加につながっていると思われる

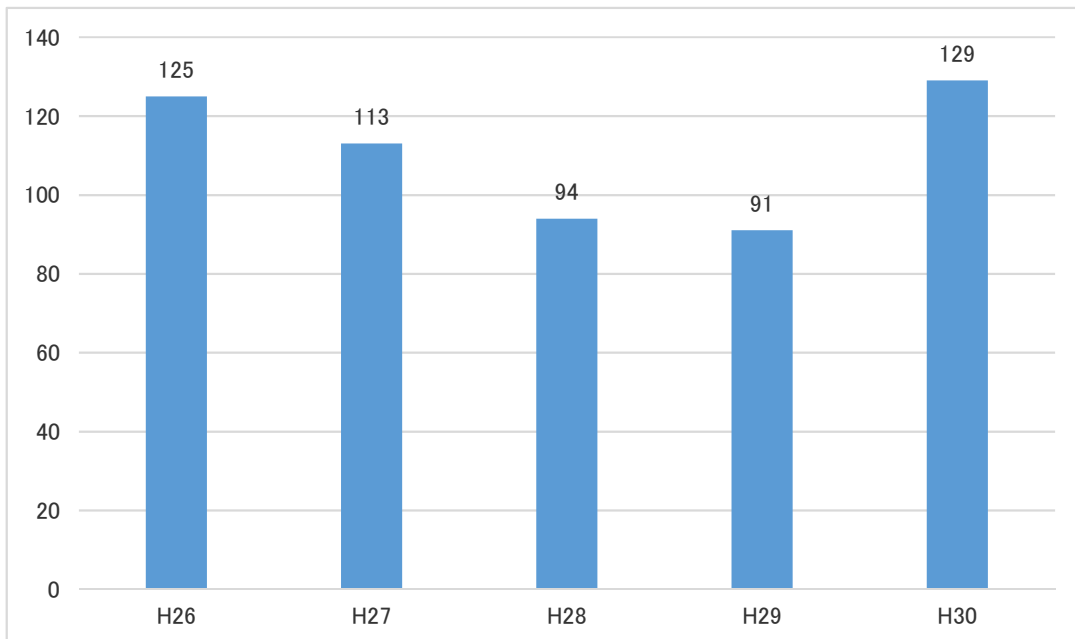
ロ) 退院数

【目的】

死因の第1位である癌患者の死亡時期に季節が関係するかなど統計で見る事で職員の配置や有給消化業務の見直しができる。



直近5年(退院数)



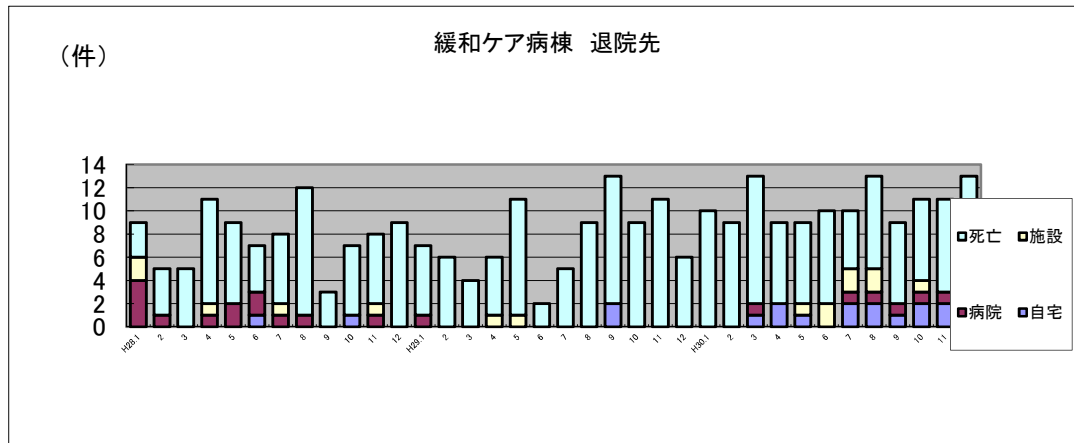
コメント

月毎の推移で年間通して傾向などは見受けない  
 入院件数の増加理由に伴い、退院数の増加も平行して増加している  
 と思われる

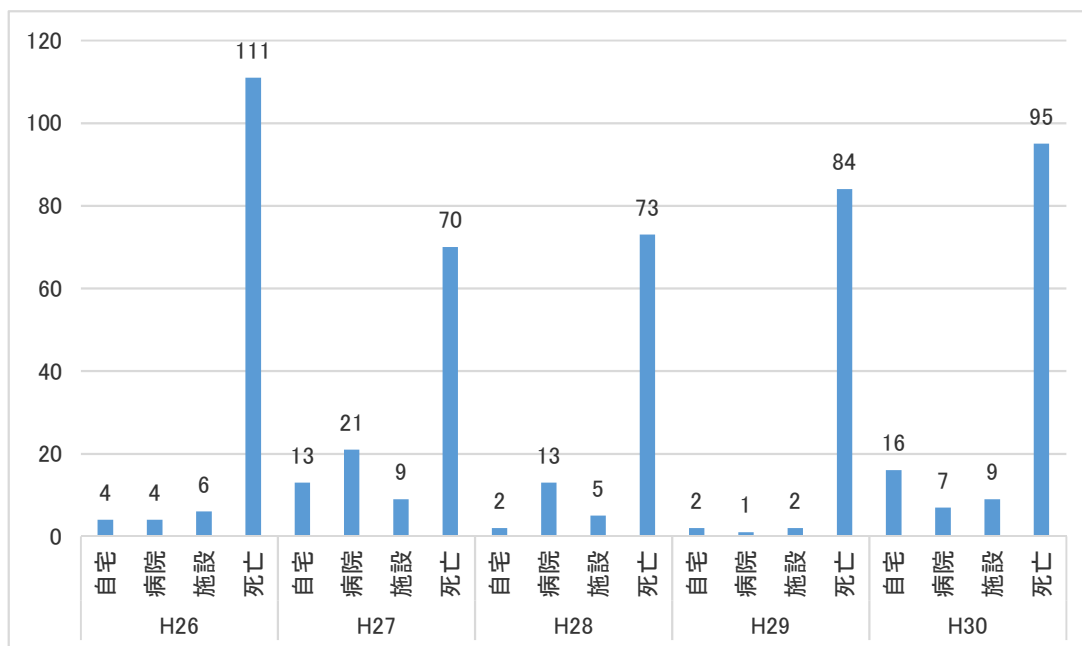
## ハ) 退院先

### 【目的】

退院先を知る事で今後必要とされるのサービス提供を考える事ができる。  
(地域連携の必要性など)



### 直近5年(退院先)



### コメント

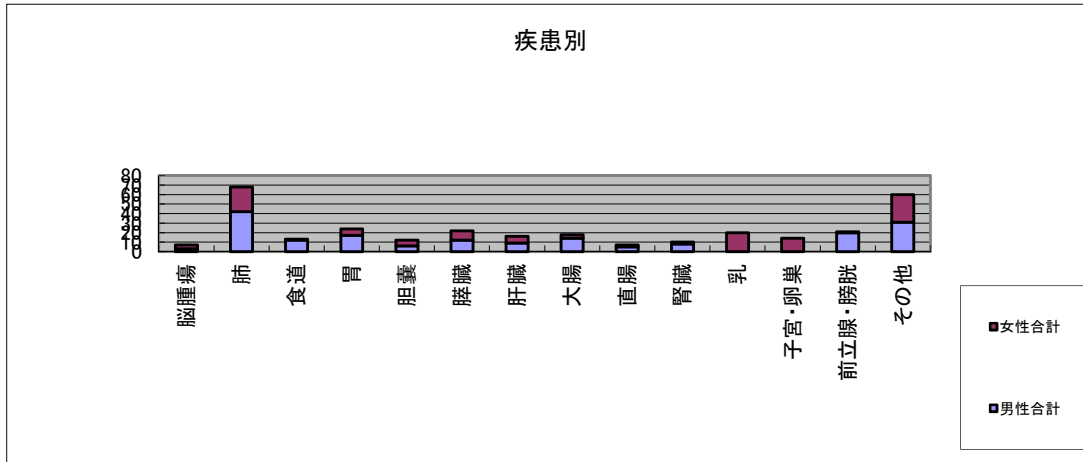
H30年度は診療報酬改定に伴い、在宅復帰率を意識した退院支援を行った結果、自宅・施設退院者が増加している



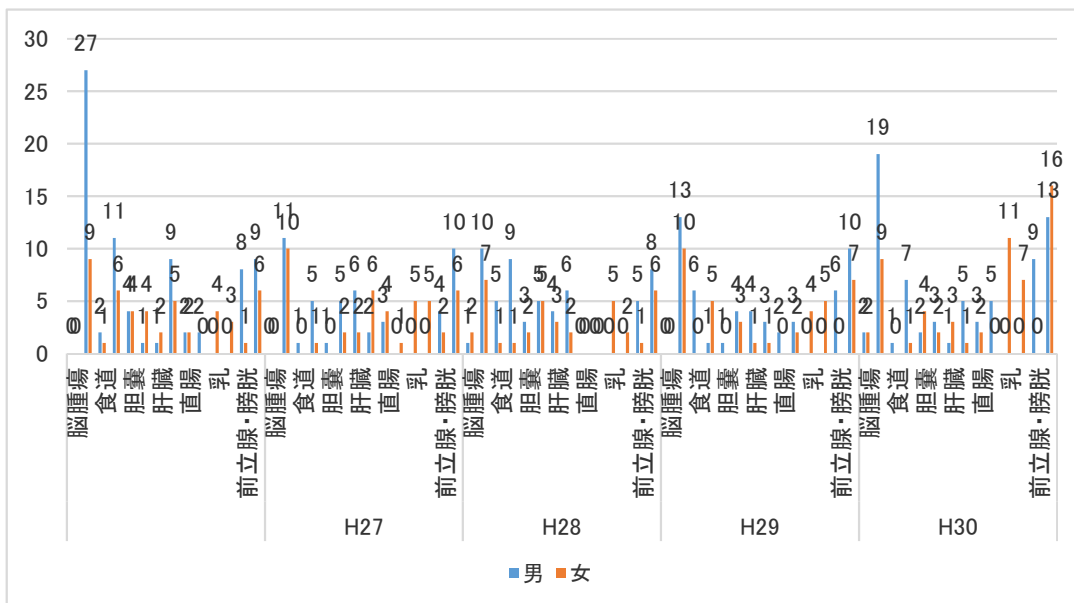
ホ) 疾患別

【目的】

健診に役立つ。  
地域への呼びかけに役立つ。



直近5年(疾患別)

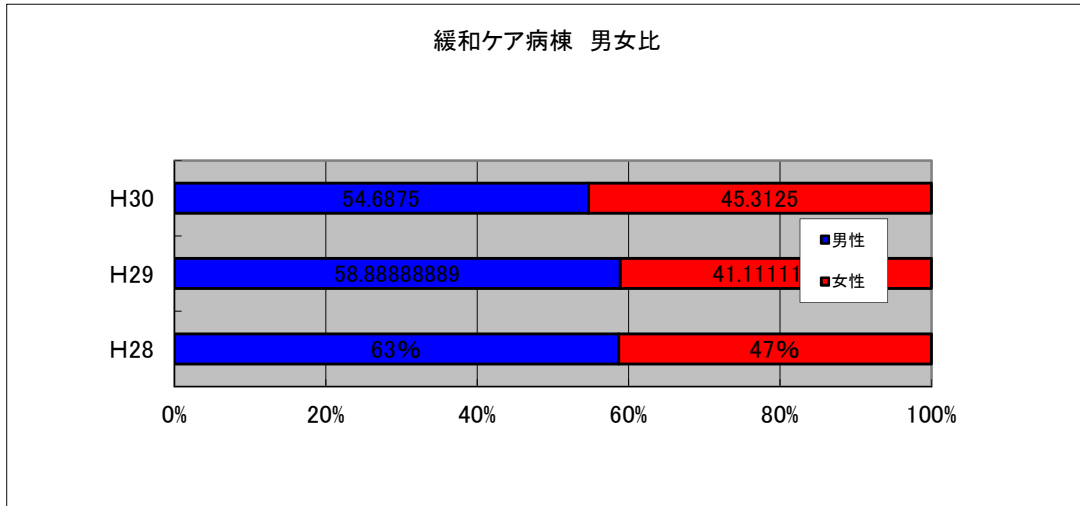


コメント

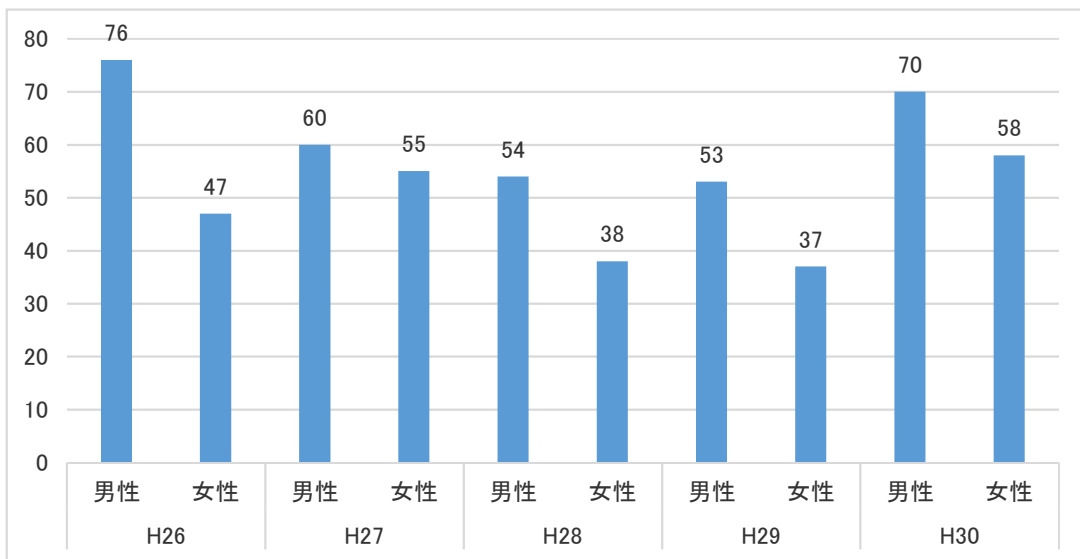
へ) 男女比

【目的】

健診に役立つ。  
地域への呼びかけに役立つ。



直近5年(男女比)

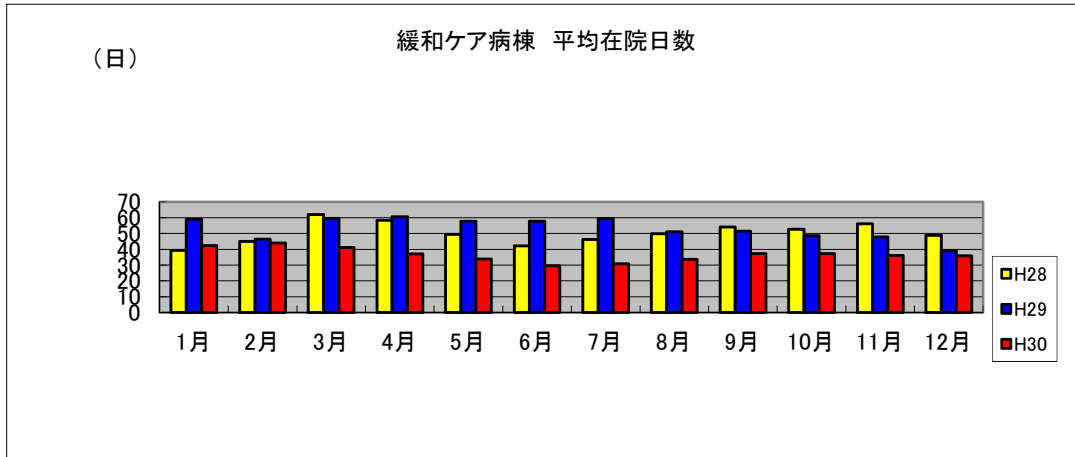


コメント

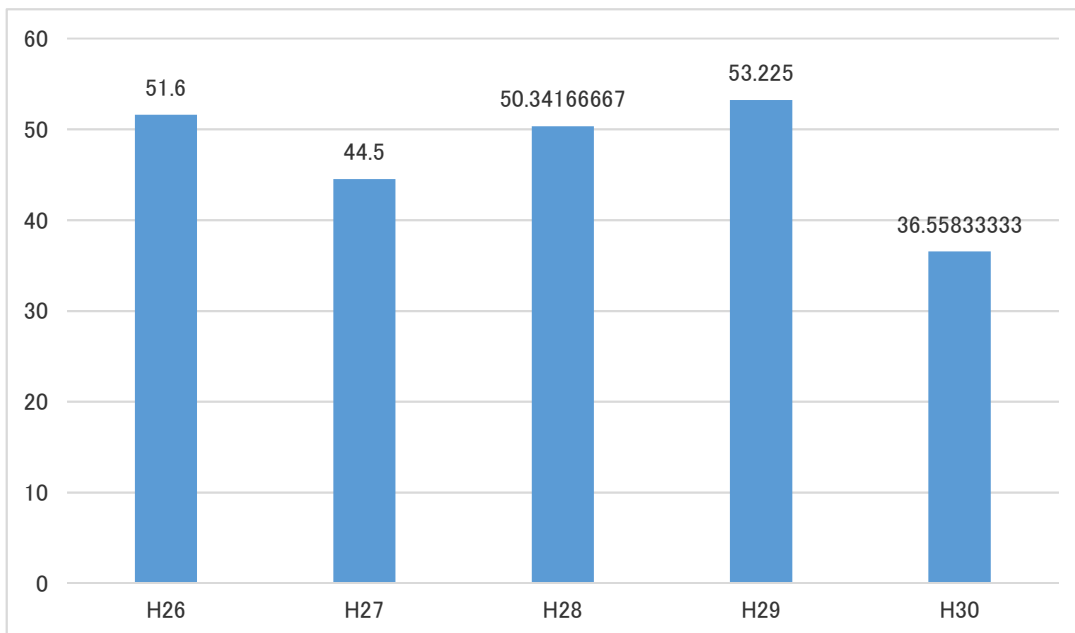
ト) 平均在院日数

【目的】

満床時は待ち日数が読めるようになる。  
外部へ情報提供に使える。



直近5年(平均在院日数)

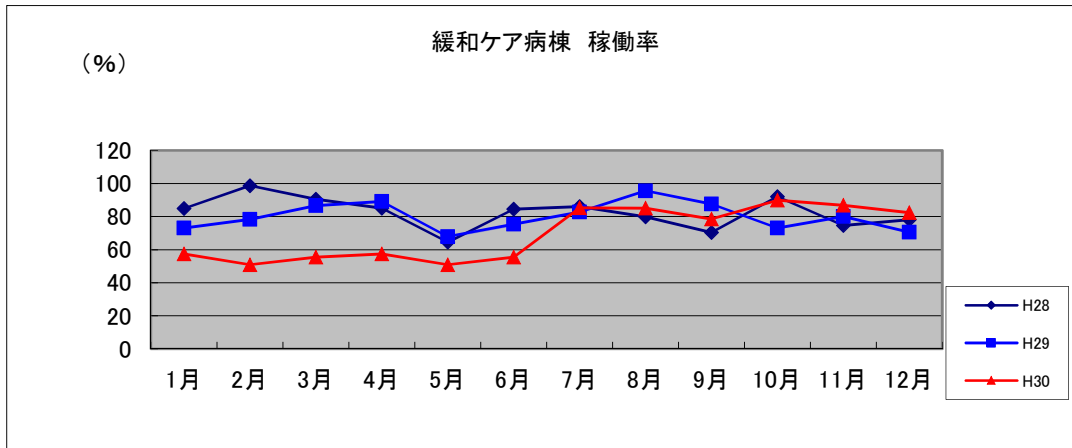


コメント

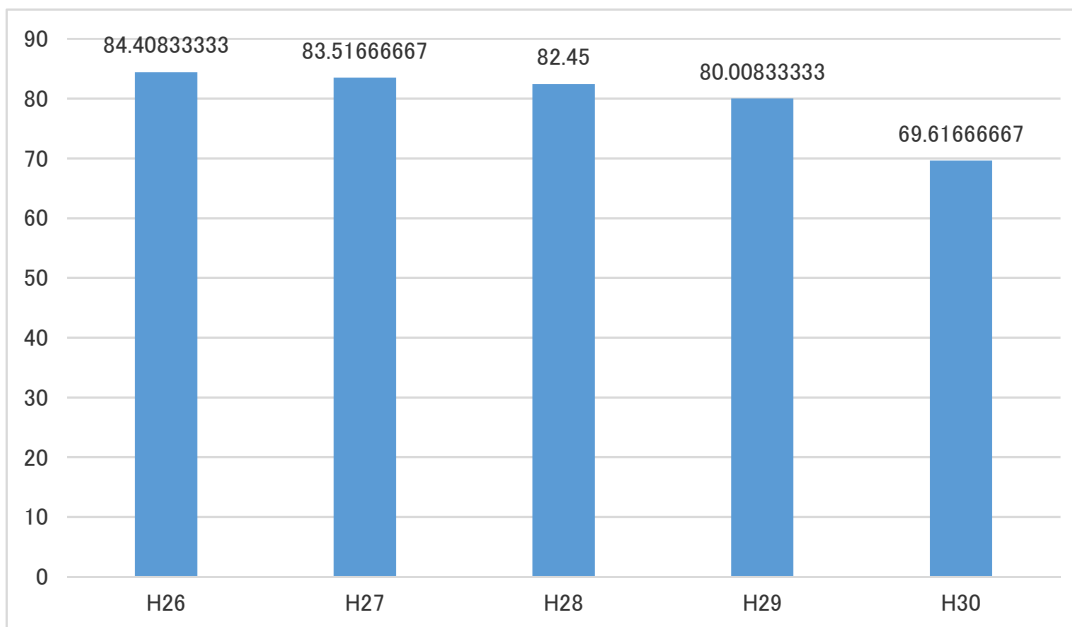
チ) 稼働率

【目的】

緩和ケア病棟の必要性や収入がみえてくる。



直近5年(稼働率)



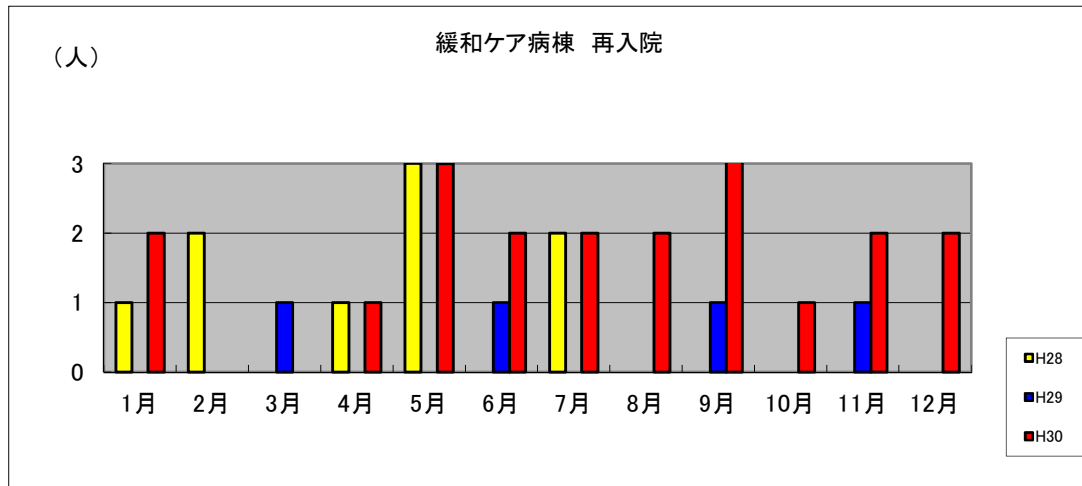
コメント



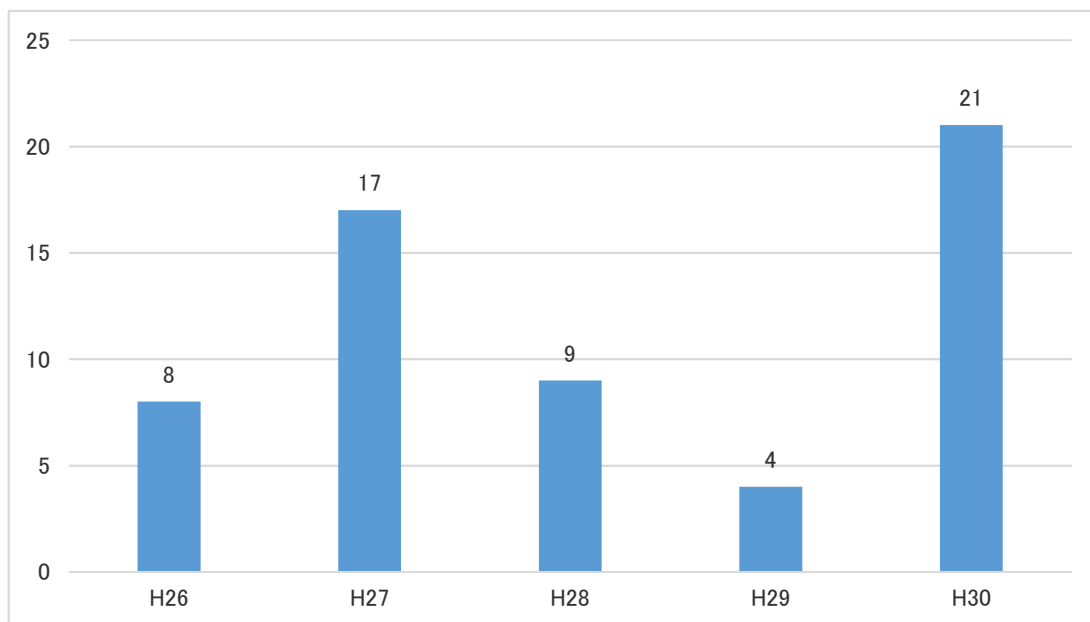
リ) 再入院

【目的】

入院が死亡に繋がるのではなく、より良く生活するために入院という手段があることを宣伝できる。



直近5年(再入院)

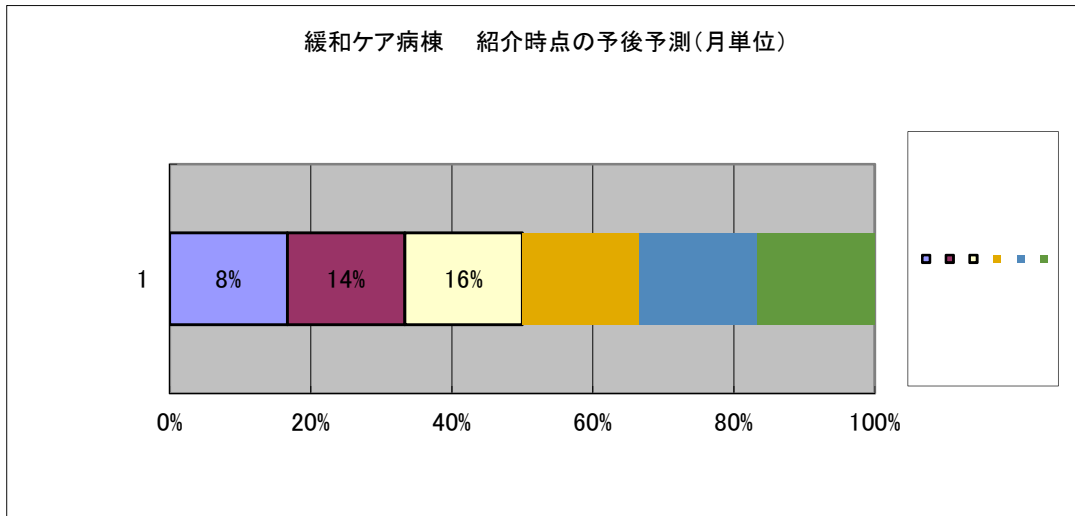


コメント

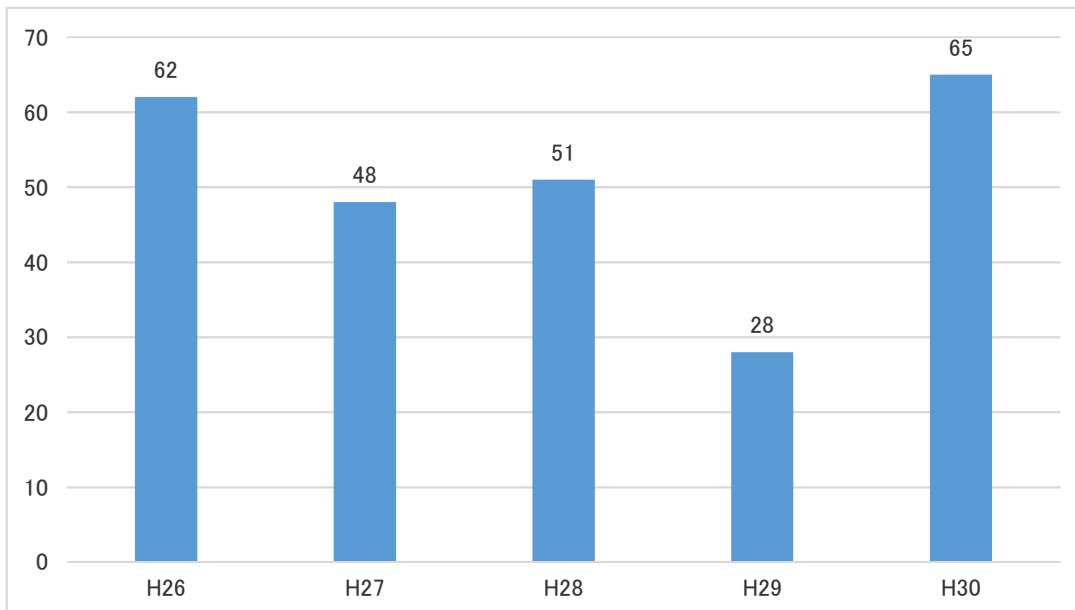
又) 紹介時点の予後予測(月単位)

【目的】

早い段階で緩和ケアの介入が必要であり対応できている事を伝えられる。



直近5年(紹介時点の予後予測)

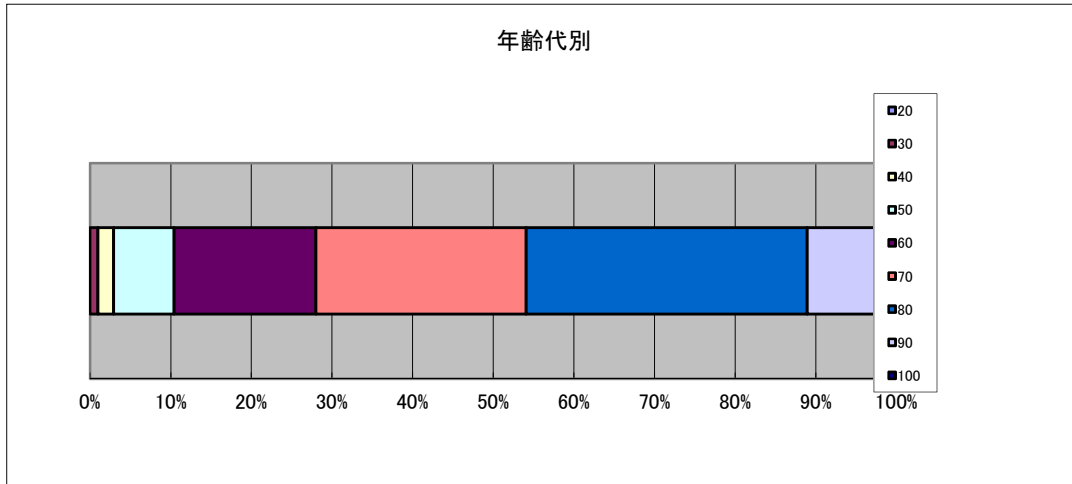


コメント

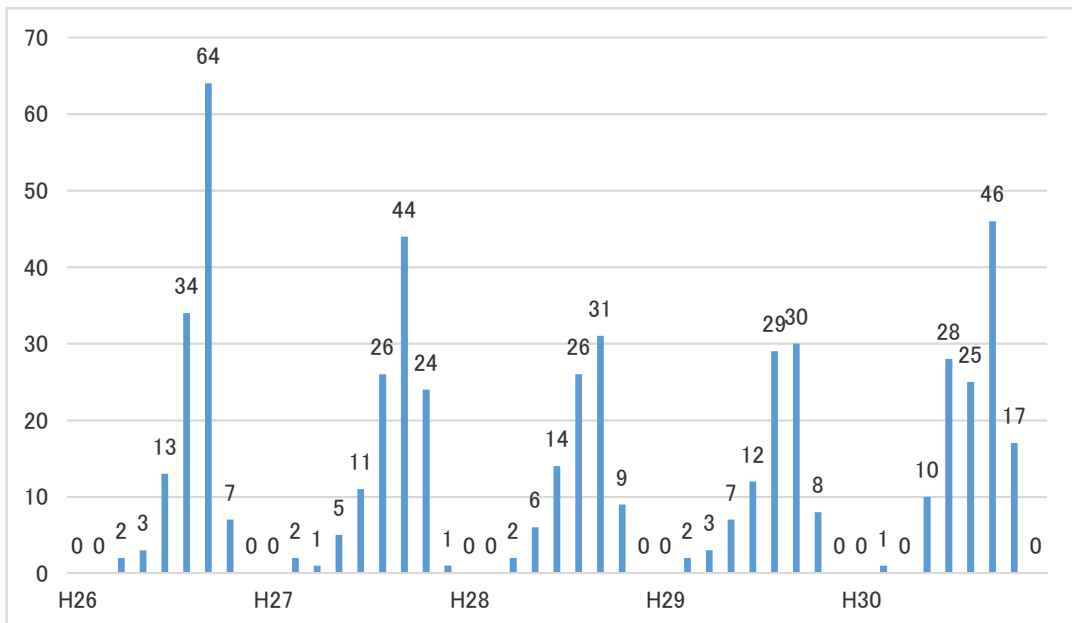
ル) 年代別

【目的】

健診に役立つ。  
地域への呼びかけに役立つ。



直近5年(年齢代別)

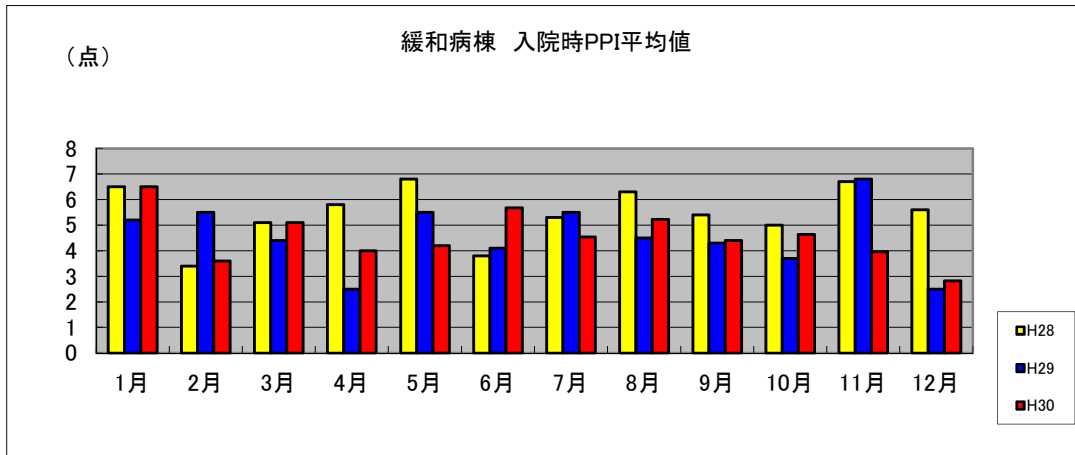


コメント

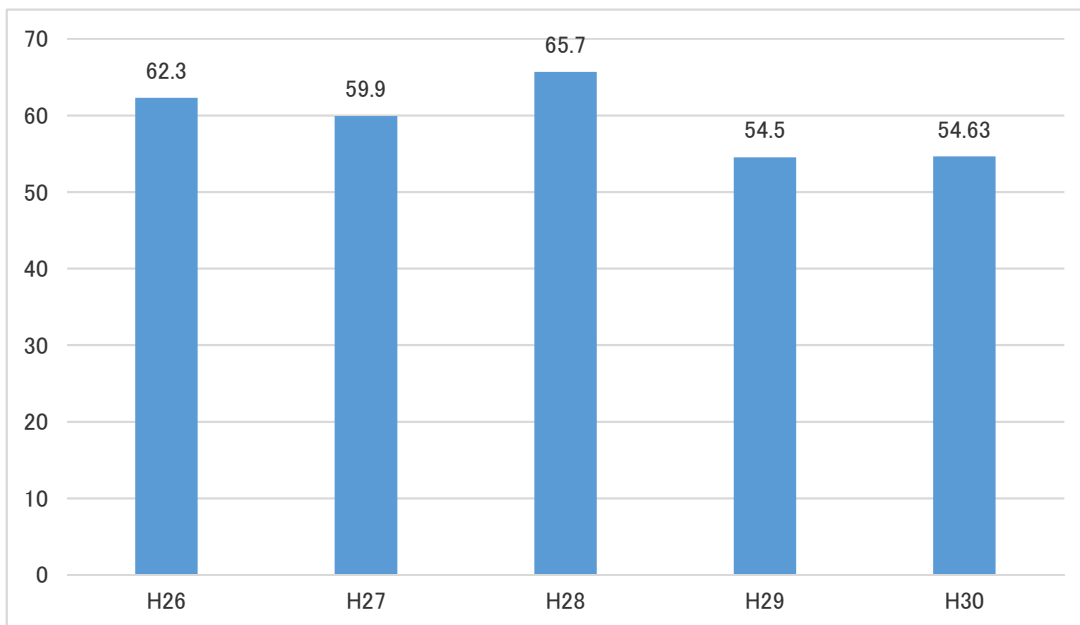
ヲ) 入院時PPI平均値

【目的】

予後予測に役立つ。



直近5年(入院時PPI平均値)

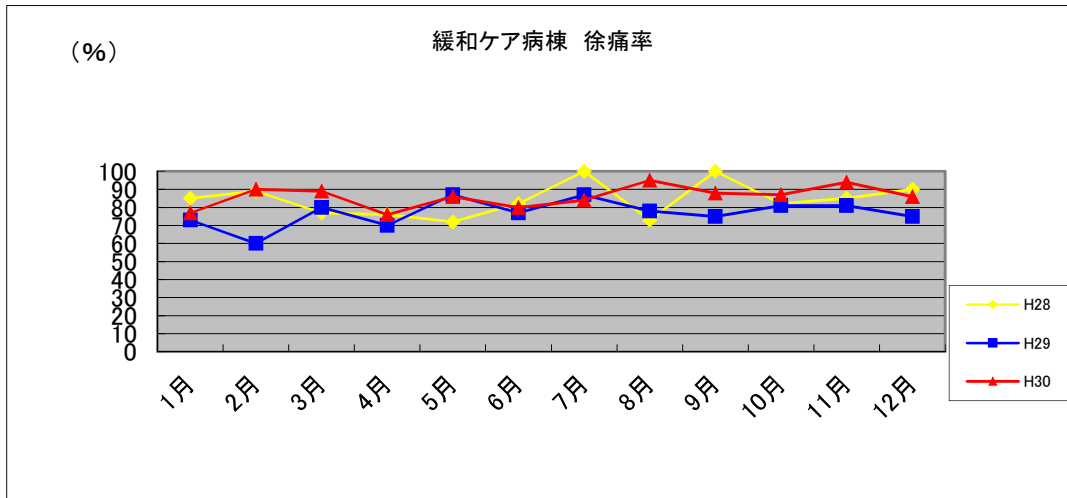


コメント

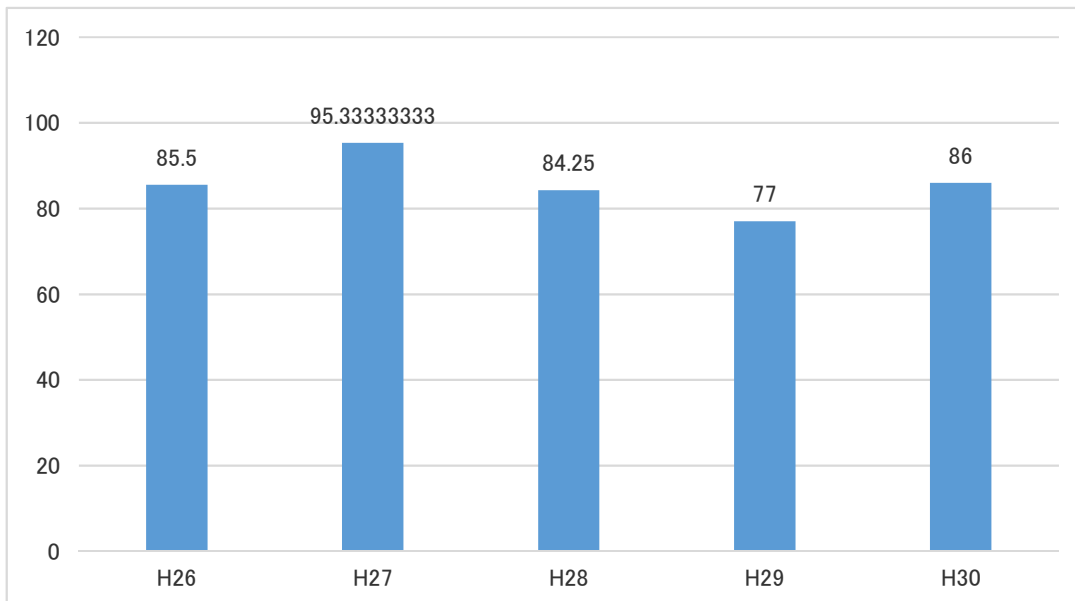
ワ) 徐痛率

【目的】

今ある苦痛などの症状はほぼ取り除く事が可能であることを証明できる。



直近5年(除痛率)

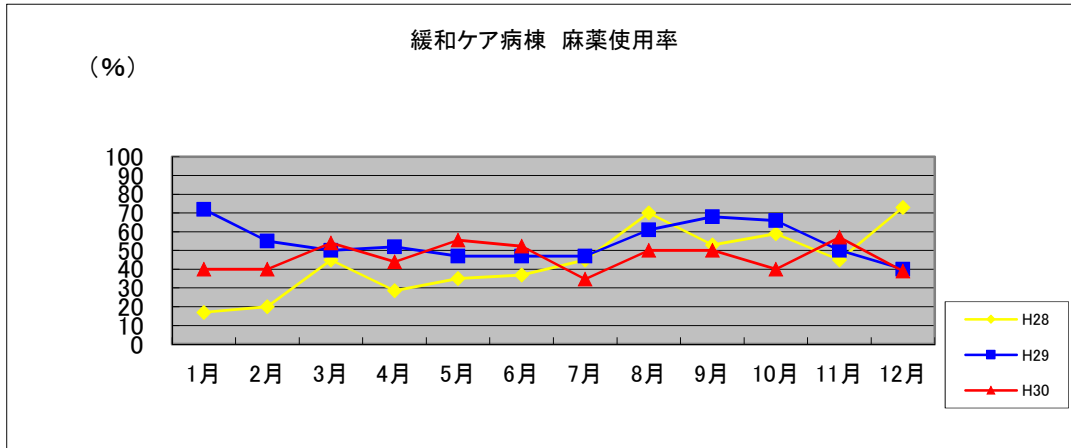


コメント

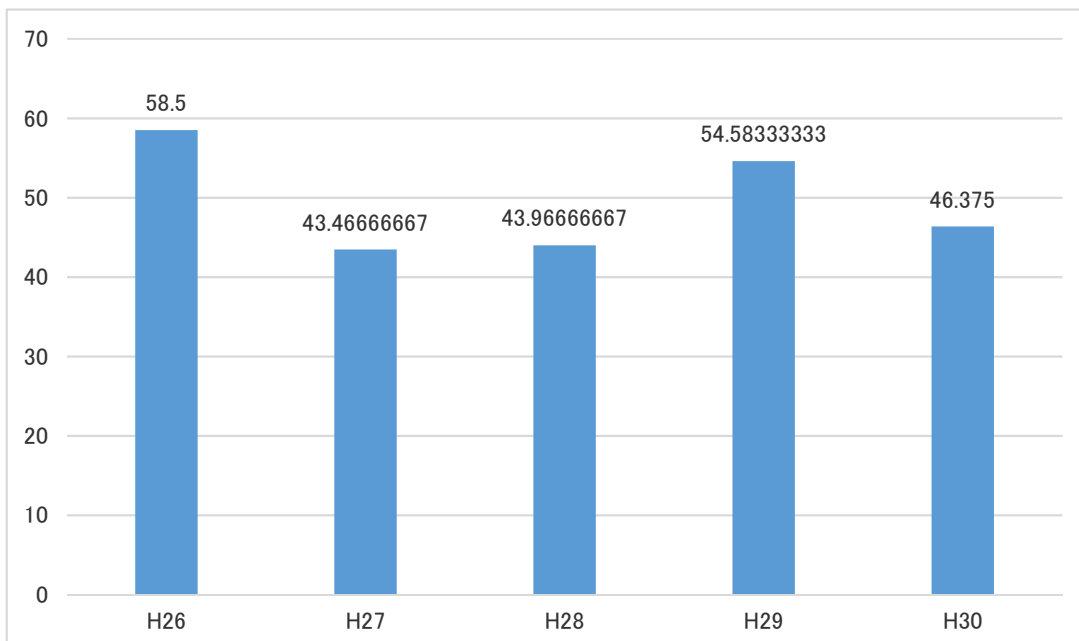
カ) 麻薬使用率

【目的】

麻薬を使用しなくても安楽な生活が送れる事。  
 逆に約半の人が麻薬の使用を必要とすることを伝える事ができる。



直近5年(麻薬使用率平均)



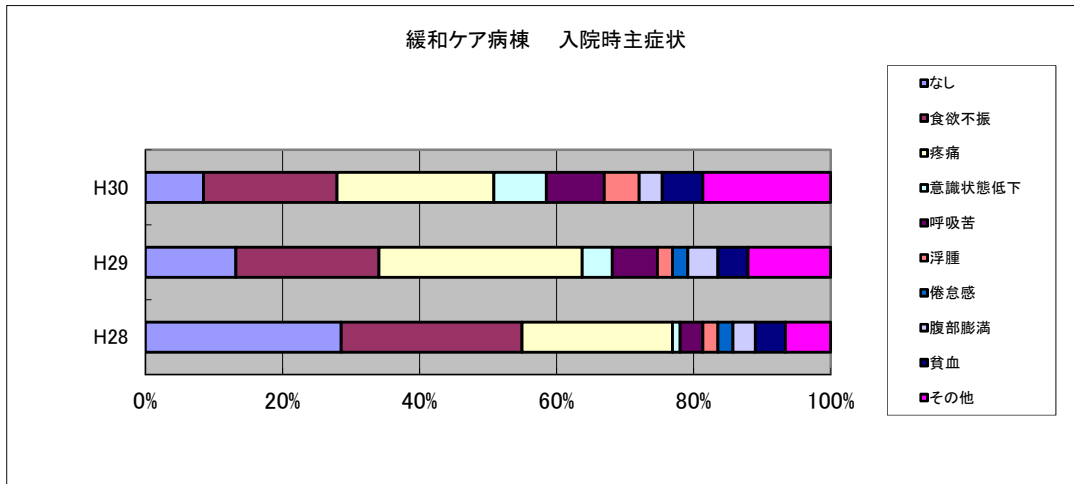
コメント



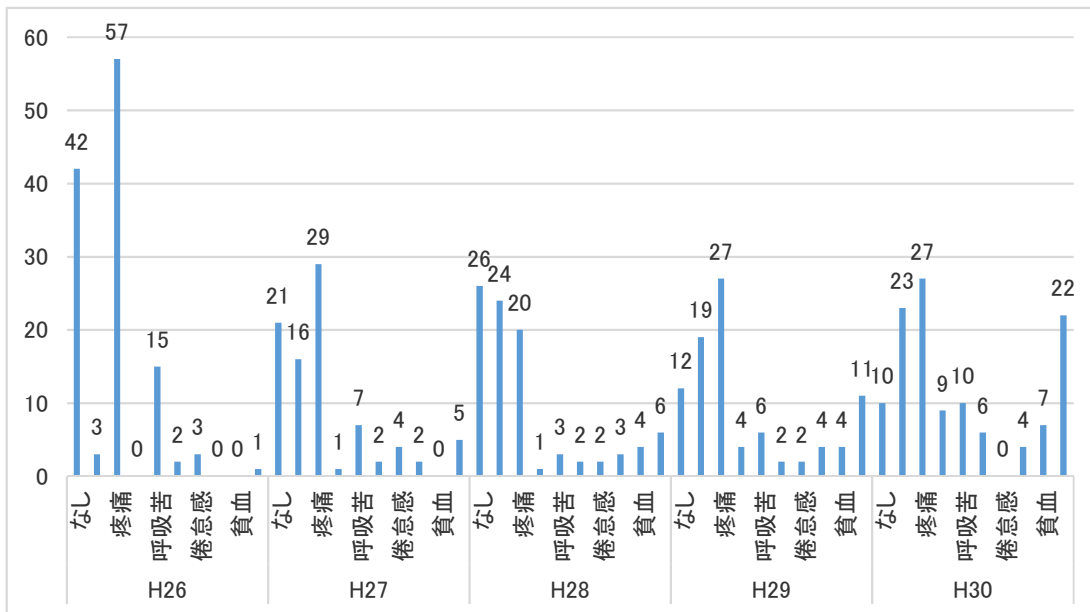
タ) 入院時の主症状

【目的】

緩和ケア病棟に求められていることが分かり、教育に反映できる。



直近5年(入院時主症状)



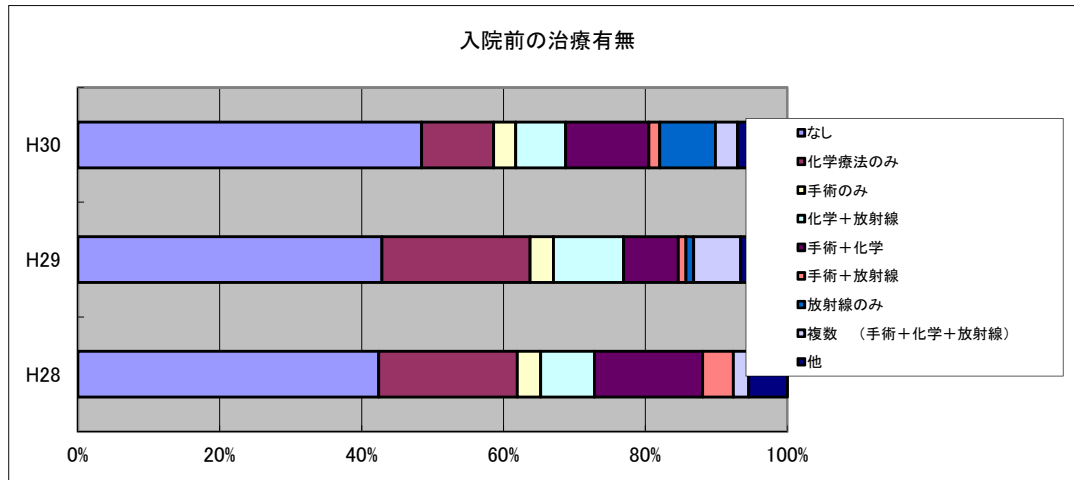
コメント



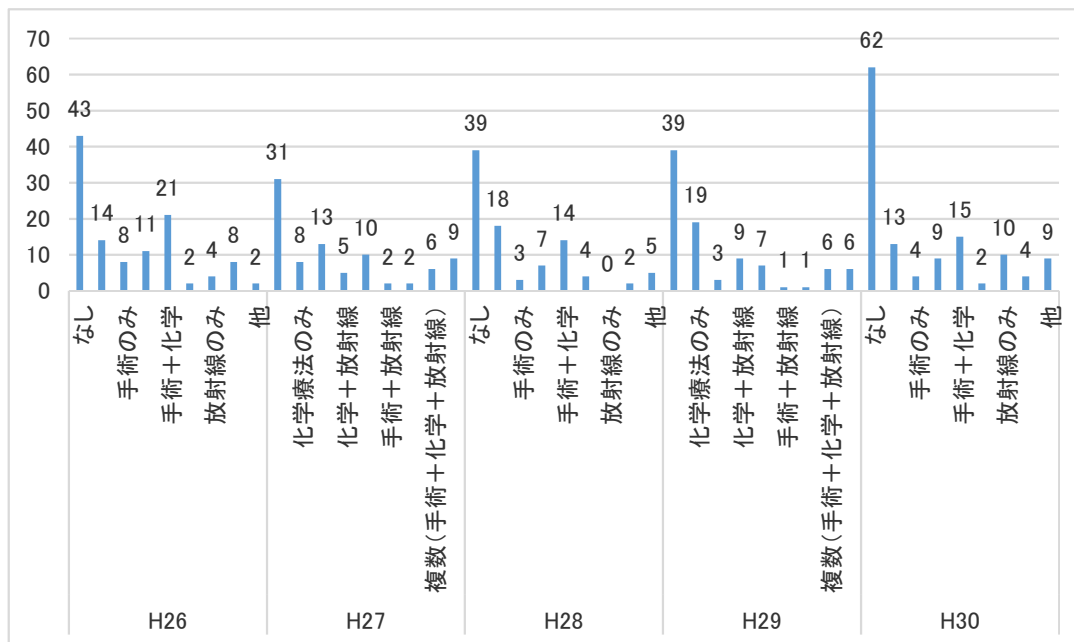
レ) 入院前の治療有無

【目的】

緩和ケア病棟入院前の苦痛、苦勞を知ることができる。



直近5年(入院前の治療有無)



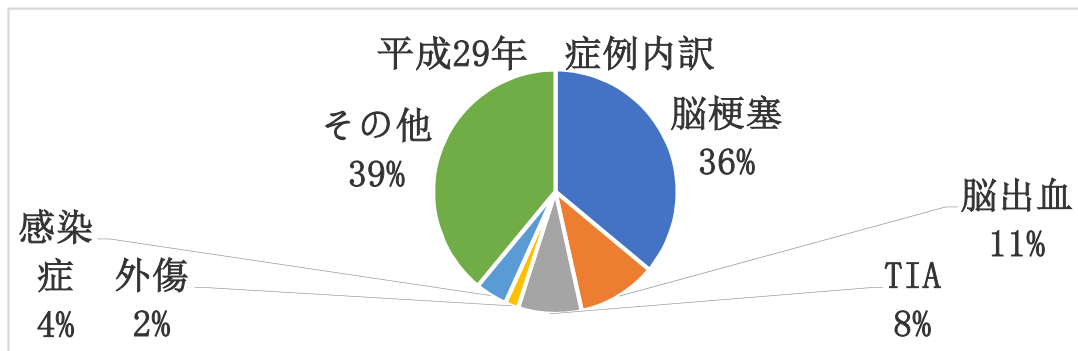
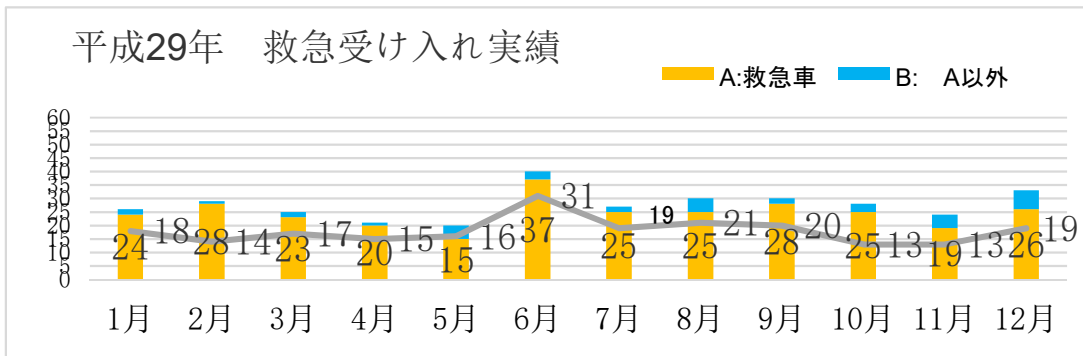
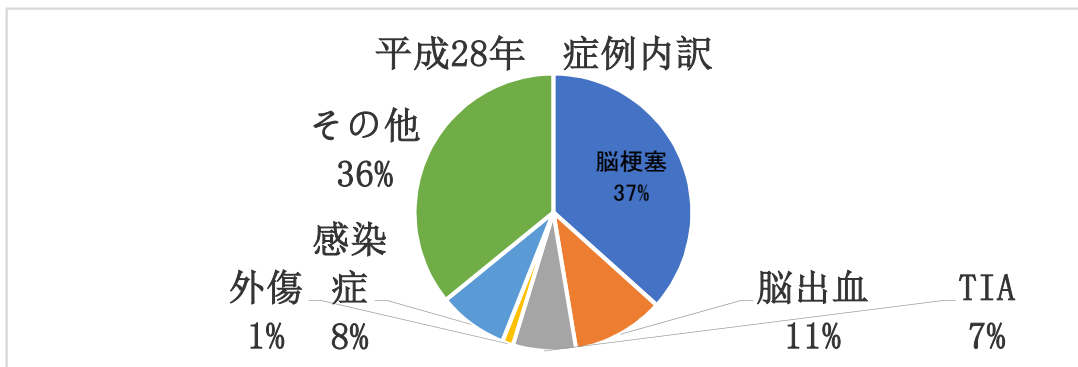
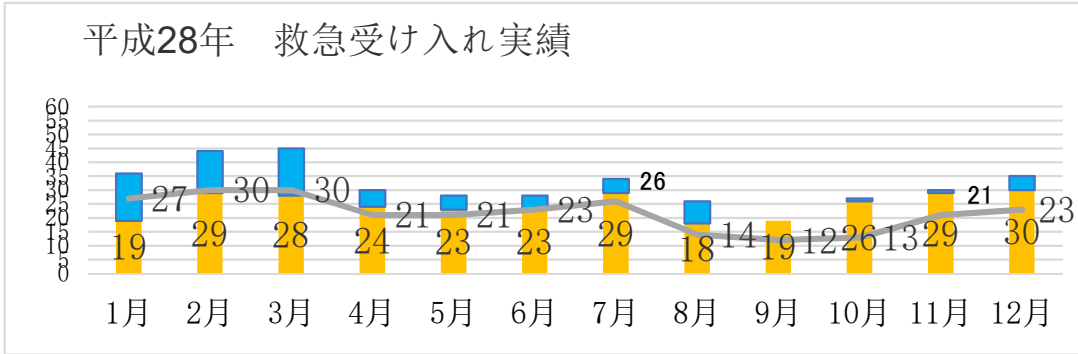
コメント

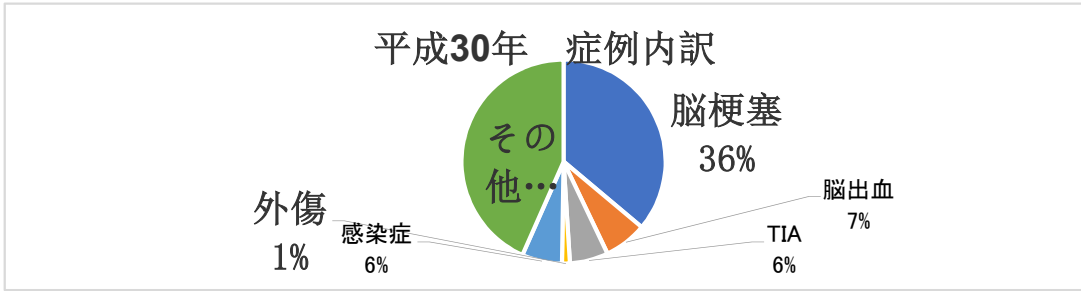
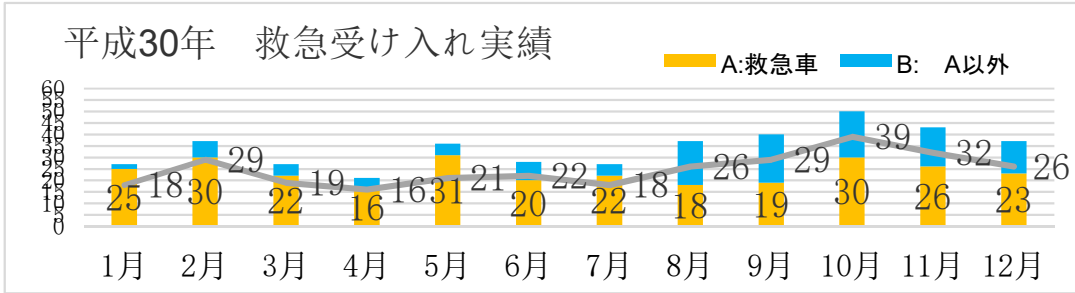
11. 外来 外来主任 小野 健史

イ) 救急受入実績(各年度詳細)

【目的】

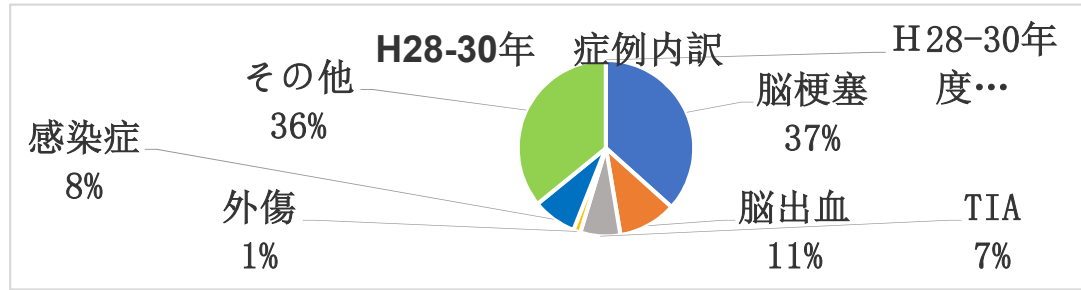
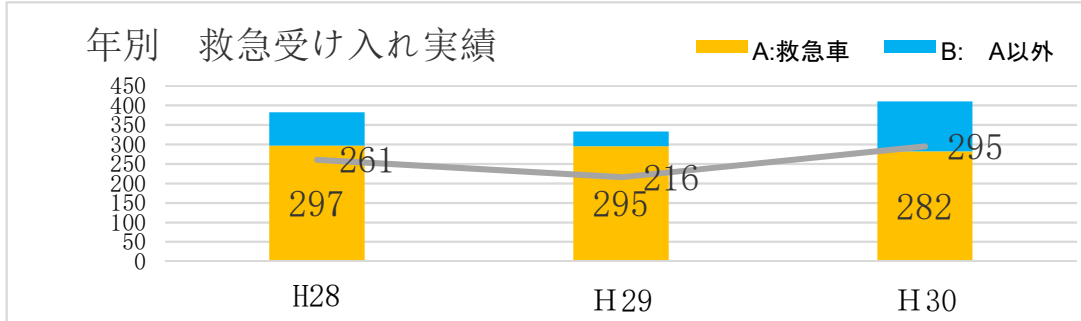
直近3年間における月別での、救急受け入れ実績、症例内訳の可視化。





**コメント**  
 受け入れ件数の上昇に伴い、各月で入数も比例して増加しているのは、直近3年でも共通している。H30年においては、10月が最も件数が多かったが、過去と比較した場合でも関連性は特にならない。症例の内訳としては、脳梗塞の割合はほぼ変動がない。H30年は出血を含めた脳卒中割合は約40%となっていた。

ロ) 年別  
**【目的】**  
 直近3年間における各年総数での、救急受け入れ実績、症例内訳の可視化。

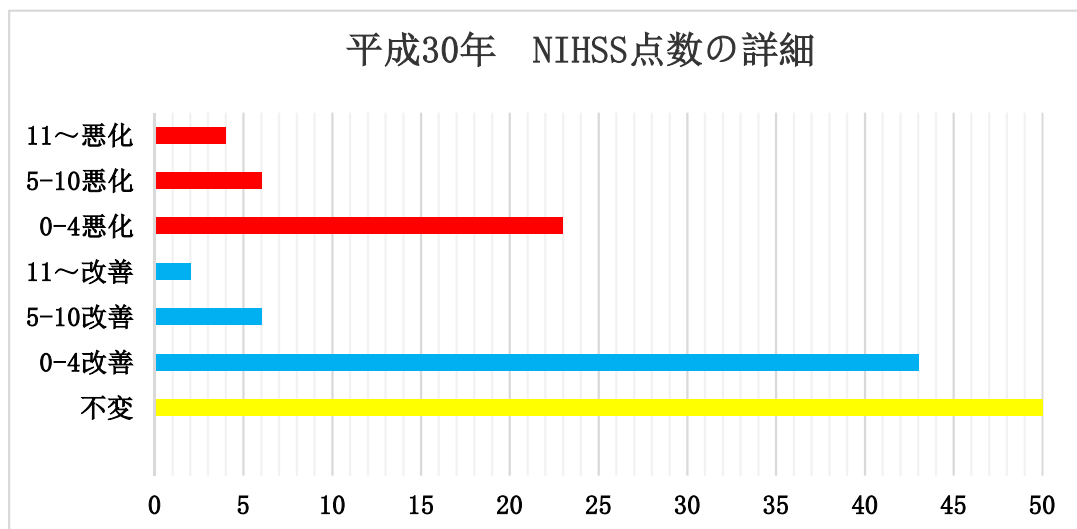
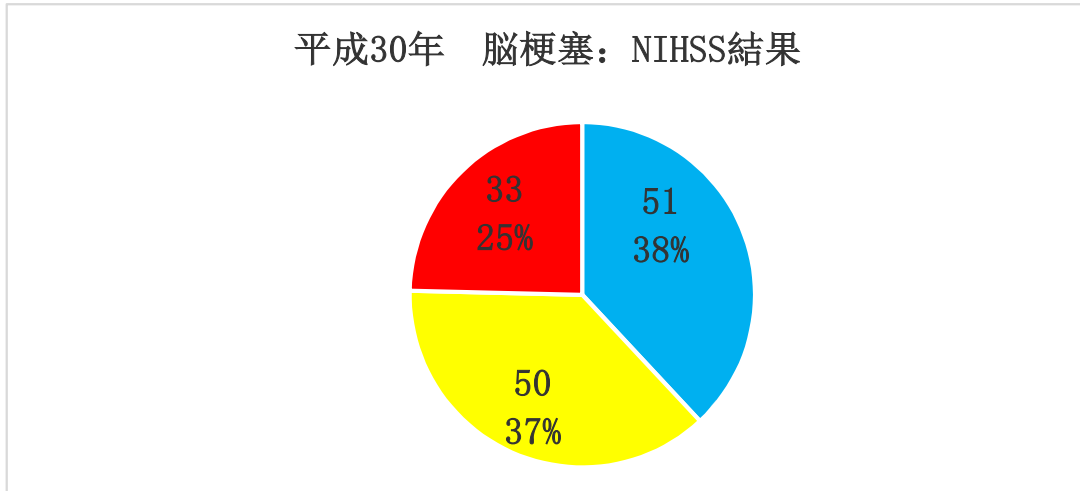


**コメント**  
 昨年を大きく上回る受け入れの増加となったが、救急車での差は軽微である。病態として軽症であり、移動方法として救急車以外での受診数の増加が影響したためと推察される。症例内訳としては、月別と同様に脳卒中(脳梗塞+脳出血)の割合は約48%であった。

## ハ) NIHSS結果

### 【目的】

急性期治療前後におけるNIHSS(脳卒中重症度評価)の結果から治療実績の指標として可視化するため



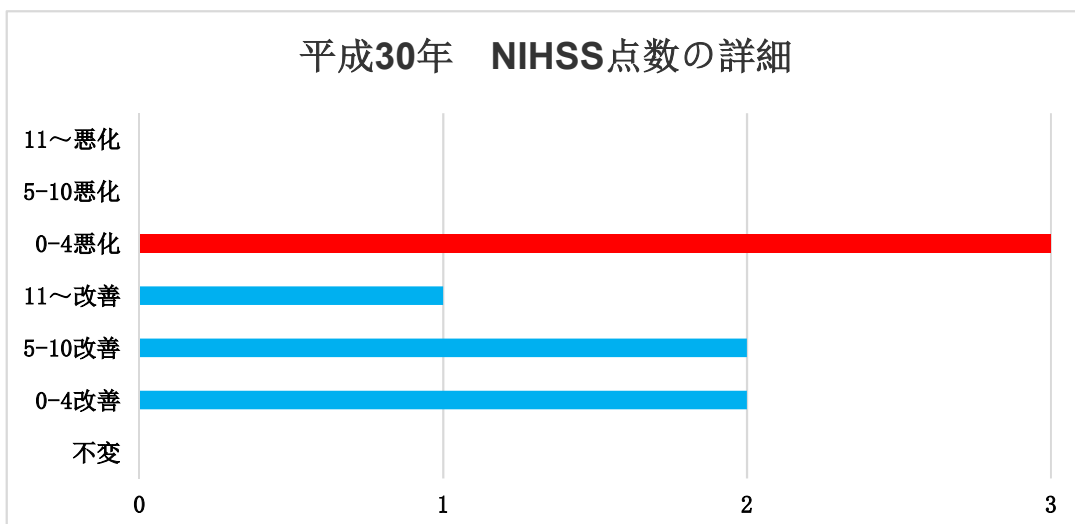
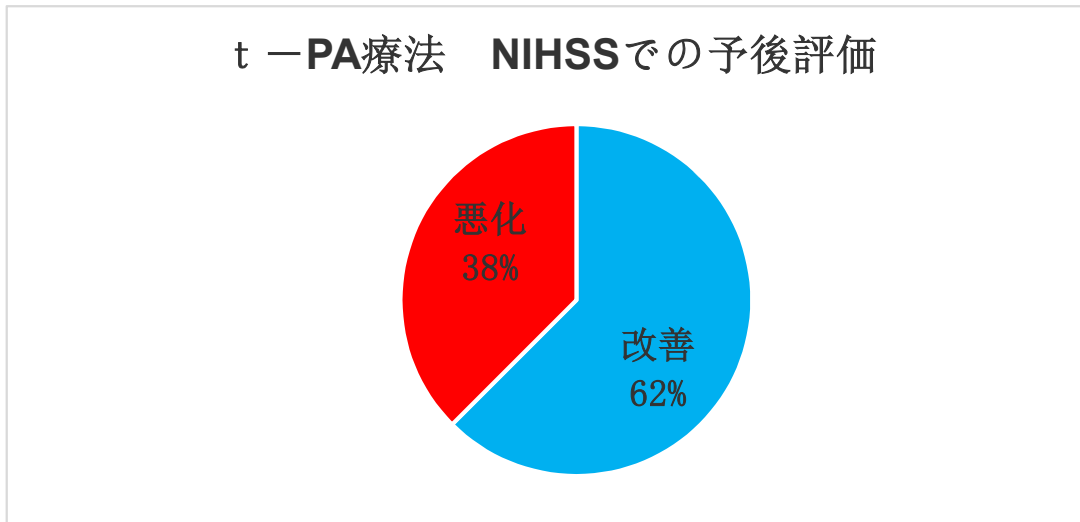
### コメント

改善群としては約40%で、悪化では約25%。ともに0-4点以内での推移が最も多い結果となった。悪化した要因としては、梗塞の種類(脳血栓症/脳塞栓症)、年齢、合併症等の因子も大きく影響してくる。より正確な分析を行う上では、今後のデータ抽出における課題とされる。

## 二) t-PA実施対象ゲストでのNIHSS点数

### 【目的】

H30年までの当院におけるt-PA療法(血栓溶解療法)の治療実績についてNIHSS点数より可視化。



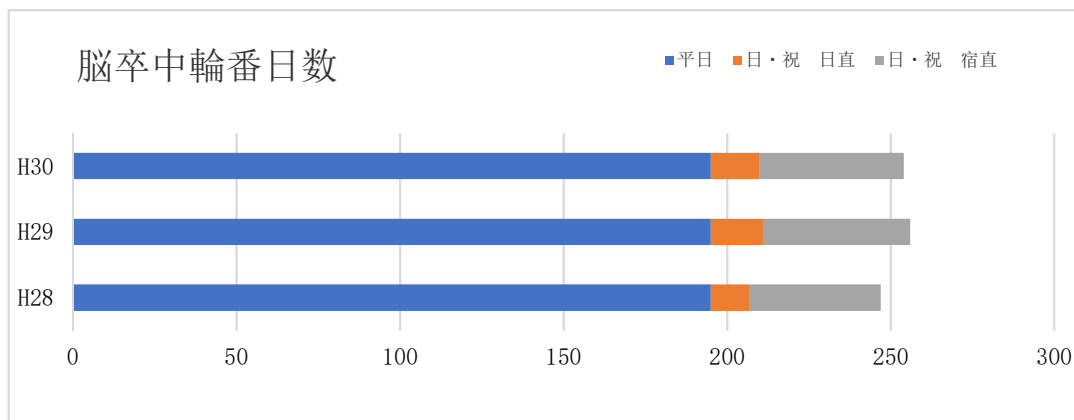
### コメント

改善の割合は約70%、悪化の割合は約30%となった。改善では大きな点数の変動も含まれているが、悪化においては、軽微な点数の変動のみに留まった。(5点以上の悪化なし)

## ホ) 脳卒中輪番日数

### 【目的】

延岡市脳卒中輪番体制における当院の当番日数の可視化。  
恒常的に輪番体制を遂行できてるかの指標。



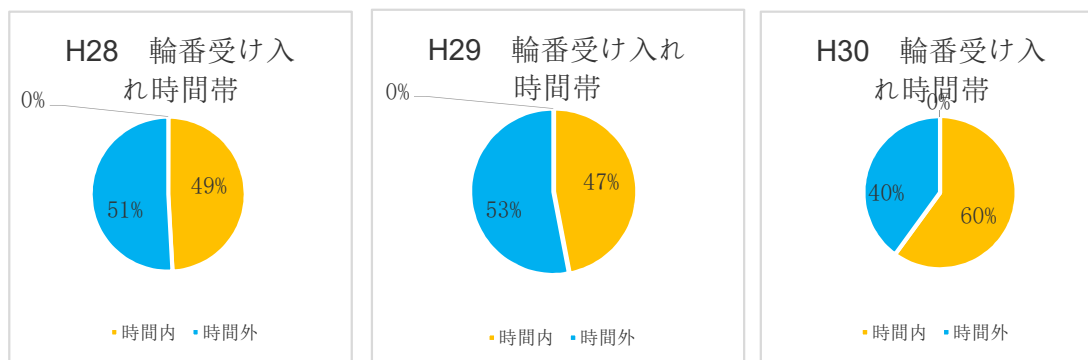
### コメント

直近3年間において、大きな日数の変化はない。この事から、安定して脳卒中輪番体制を遂行していると評価できる。また、日数の軽微上昇については他の医療機関の輪番日を代行した件数が含まれている。

## へ) 輪番受け入れ時間帯

### 【目的】

輪番での受け入れが発生した時間帯の内訳の把握。  
時間内:①午前9時～午後5時まで



### コメント

H30において、時間内での受け入れ件数が約10%上昇している。  
昼間の時間帯で、他医療機関や救急要請の依頼で脳卒中トリアージ以外の症例も受け入れをおこなった事が起因していると推察。

## Ⅷ.運営管理

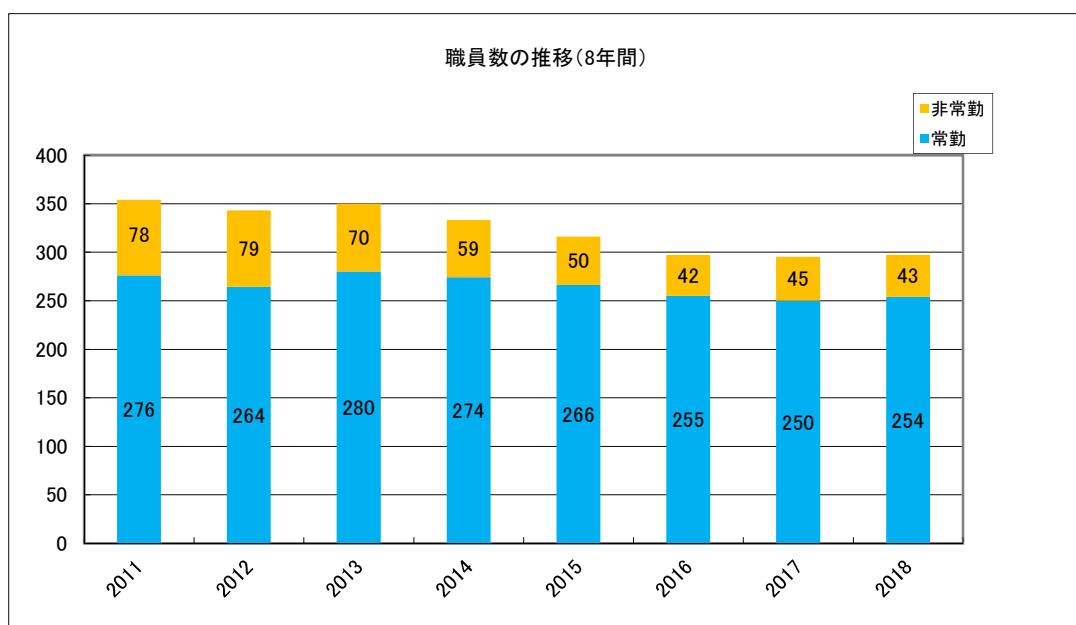
### 11. 人事労務 事務長 高見 広樹

かつて病院はきつい・きたない・危険の3Kといわれていた職場であり、疾病や障害のある「ヒト」と接する以上、仕方がない面はあります。よって職員のストレスを必要以上与えないよう、時間外労働の削減、有給休暇の完全取得、子育て支援、メンタルヘルス、成長学習支援などを行い、より良い職場環境の提供に努力しています。

#### イ) 職員数

##### 【目的】

法人運営に必要な、施設基準を満たす法定人員の確保や業務遂行上必要な人員確保を目的としている。



##### コメント

2013年常勤数280名、非常勤70名をピークとして、2017年まで常勤、非常勤ともに減少傾向であった。2014年に人件費率調整を行った結果である。2018年は、看護学生やセラピスト数の増加によって全年に比べ増加傾向である。